

人材育成に係る産業界ニーズの見える化

令和2年8月6日

内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション）付

参事官（エビデンス担当）



e-CSTI (evidence data platform constructed by CSTI) サイト



- 本年 3 月、e-CSTI分析機能の関係府省庁への開放を開始。
- 本年 7 月末、国立大学・研究法人等への利用開放を開始。
- 本年夏以降、公開可能な部分について公開サイト（e-CSTI）を立ち上げ予定。

エビデンスシステム（e-CSTI）の概要

目指すべき 将来像と目標

- ・民間投資の呼び水となるよう**政府研究開発投資をエビデンスに基づき配分**することにより、官民合わせたイノベーションを活性化
- ・**国立大学・研究開発法人がEBMgtで経営を改善**し、そのポテンシャルを最大限発揮
- ・エビデンスシステムを構築し、**2020年3月に政府内利用、7月末に国立大学・研究開発法人等内利用を開始、同年夏以降公開可能な部分について公開サイトを立ち上げ予定**

	エビデンスシステムの分析	具体的内容
1.	科学技術関係予算の見える化	行政事業レビューシートや各省の予算PR資料を活用し、関係各省の予算の事業内容、分野等の分類を可能とすることにより、科学技術関係予算が見える化する。
2.	国立大学・研究開発法人等の研究力の分析	効果的な資金配分の在り方を検討するため、政府研究開発投資がどのように論文・特許等のアウトプットに結びついているかを見える化する。
3.	大学・研究開発法人等の外部資金獲得に関わる分析	大学・国立研究開発法人等への民間研究開発投資3倍増達成を促進するため、各法人の外部資金獲得実態を見える化するとともに、各法人が用途の自由度の高い間接経費や寄付金をどのように獲得しているかを見える化する。
4.	大学等の人材育成の分析	各大学等が社会ニーズを意識しつつ教育改善を図ることを可能とするため、産業界の社会人の学びニーズや産業界からの就活生への採用ニーズを産業分野別、職種別に見える化する。
5.	地域における大学等の目指すべきビジョンの分析	イノベーション・エコシステムの中核となる全国の大学等が、今後目指すべきビジョンの検討を進めるため、地域毎の大学等の潜在的研究シーズや地域における人材育成需給を見える化する。

【目的】

- 産業界を含めた社会人の学びニーズを明らかにすることは、大学等の教育機関が自らの教育カリキュラムの在り方を検討する上で極めて有効な情報。産業分野、職種別に見える化された学びニーズを参照することにより、学部学科における教育改善の参考とすることが可能となる。
- 産業界の社会人を対象とするアンケート調査を実施し経年推移を比較可能とすることにより、社会人の専門知識獲得ニーズ見える化。
- 大学教育を受けた者が社会・産業界においてどのように処遇されているか（活躍しているか）についても見える化し、産学双方におけるより効果的な人材育成につなげていくことを目指す。

「見える化」に利用した調査事業とデータの概要

調査事業

- 経済産業省 平成26年度（2014年度）産業技術調査事業「産業界と教育機関の人材の質的・量的需給ミスマッチ調査」（2015年1月下旬～2月上旬にWEB アンケートにて実施）
- 内閣府 平成31年度（2019年度）科学技術基礎調査等委託事業「産業界と教育機関の人材の質的・量的需給マッチング状況調査」（2019年12月～2020年1月上旬、WEB アンケート（クロス・マーケティング社）にて実施）

アンケート回答者の基礎情報

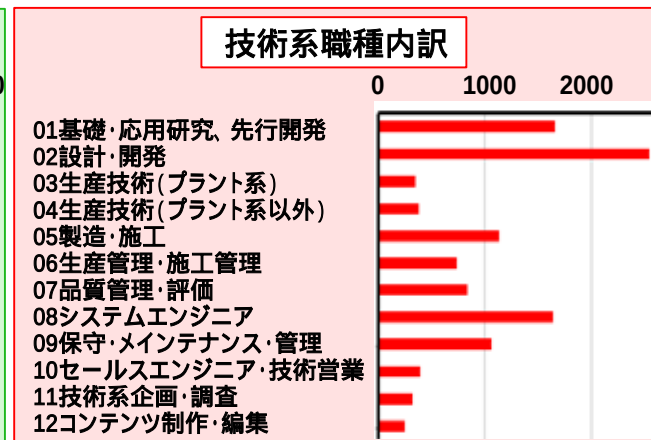
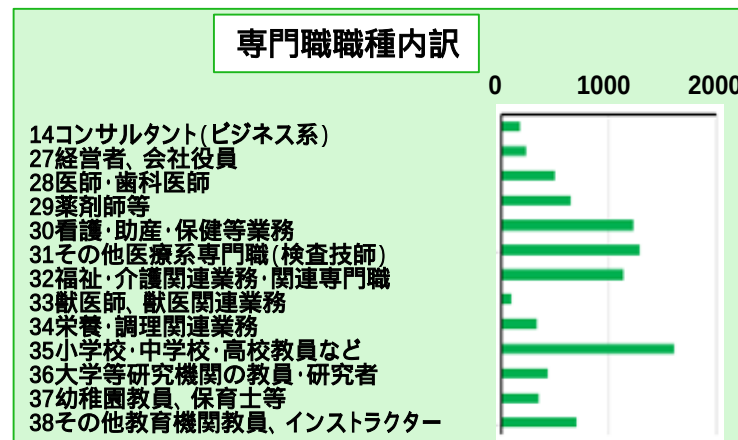
- 2014年度調査の総回答数は73,612件、2019年度調査の総回答数は78,351件。
- 上記のうち、20歳以上～45歳未満で、高等専門学校、大学、大学院を卒業した、正社員、契約、自営業等の雇用形態で働く社会人の回答を集計。

専門知識分野の分類

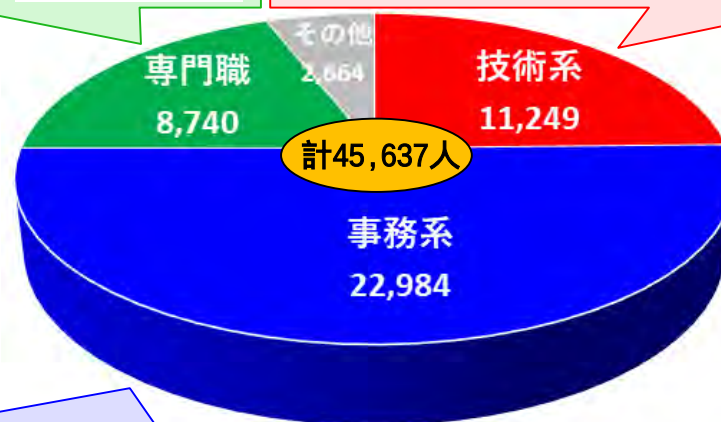
- 科研費の細目に対応した 265の細目に分類。

調査実施

河合塾

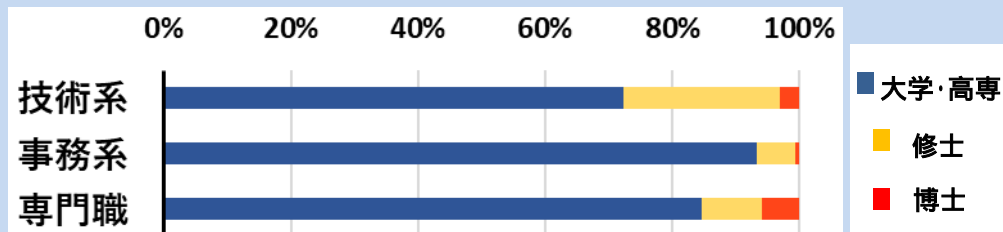


職種別分類



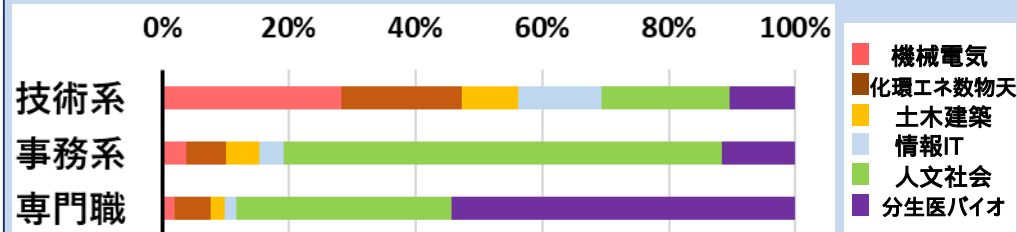
調査項目の例と、職種別の分布の概要

最終学歴



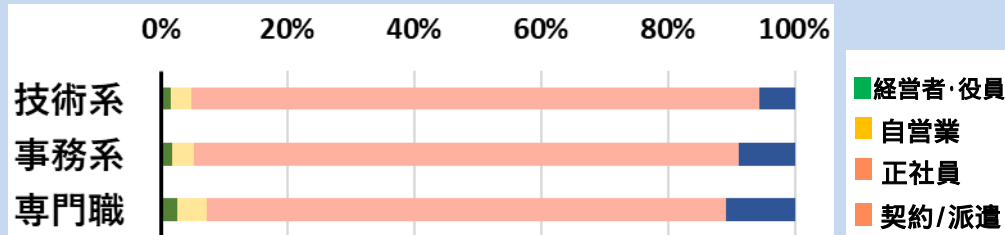
事務系はほぼ大学・高専卒。博士卒は専門職と技術職へ。

出身研究分野



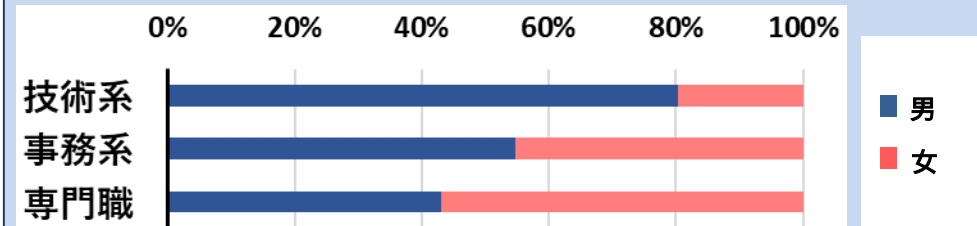
機械電気は技術系。人文社会は事務系。バイオは専門職。

雇用形態



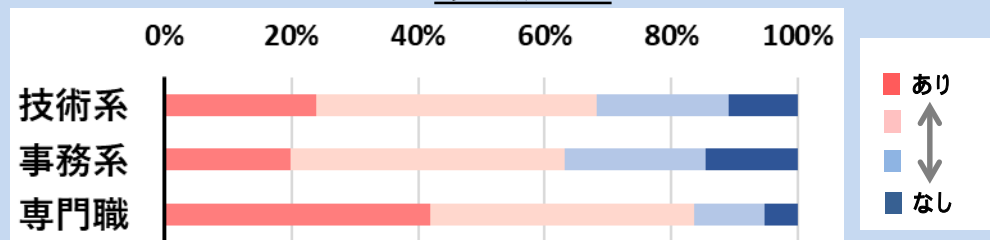
契約/派遣は専門職 > 事務系 > 技術系。

男女



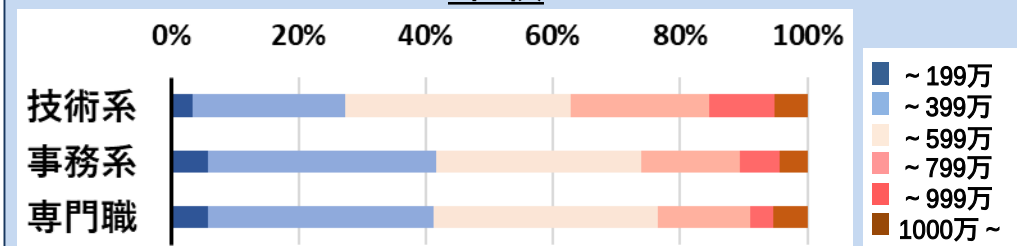
女性は専門職 > 事務系 > 技術系。

やりがい



やりがいは専門職で高く、技術系・事務系で低い。

年収



年収は技術系で高く、事務系・専門職で低い。

最終学歴の高い専門職は、非正規雇用が多く、やりがいは高いが、低年収?? ➡ 詳細分析へ 6

詳細分析 - 目次 -

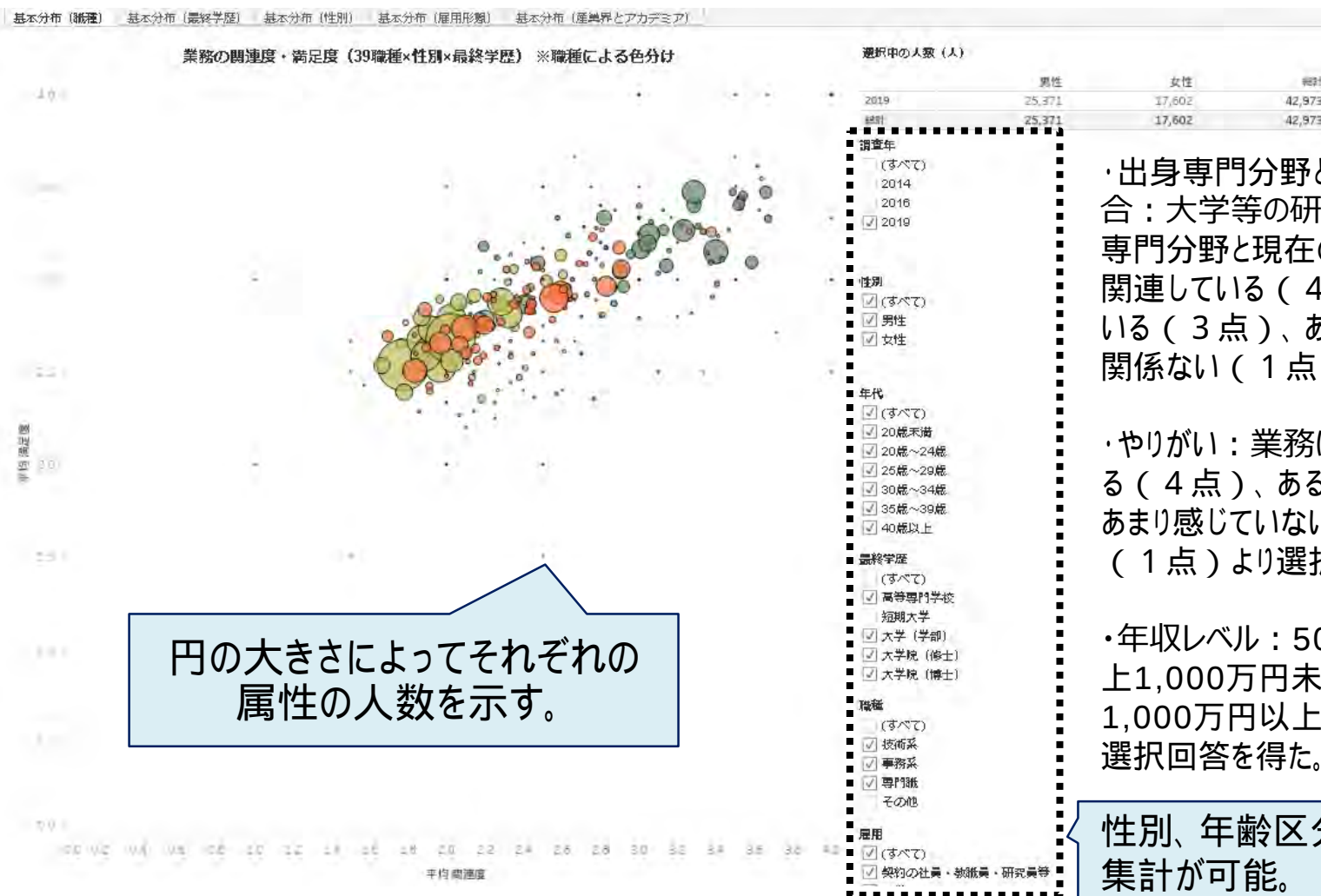
- 出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性
 - (1) 職種の違いによる分析 … 8
 - (2) 技術系、事務系、専門職における最終学歴の違いによる分析 … 14
 - (3) 産業界の研究・開発職およびアカデミアの研究者における
正規、非正規雇用の違いによる分析 … 27
- 産業界における学びニーズ・研究ニーズの分析
 - (1) 全業種および業種別傾向の分析 … 34
 - (2) 最終学歴別傾向の分析 … 46
- 出身分野別分析
 - (1) 産業分野ごとの学びニーズ・研究ニーズの分析 … 54
 - (2) 産業界で高い年収レベルを獲得する博士および
アカデミアで非正規の待遇を受ける博士の出身分野の違いに係る分析 … 59
- < 参考資料 >
- 出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性
 - (1) 技術系、事務系、専門職における最終学歴の違いによる分析 … 64
 - (2) 正規、非正規雇用の違いによる分析 … 74
 - (3) 技術系、事務系、専門職における性別の違いによる分析 … 76
- 産業界における学びニーズ・研究ニーズの分析：経年比較 … 90

**出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、
年収レベルの関係性**

(1) 職種の違いによる分析

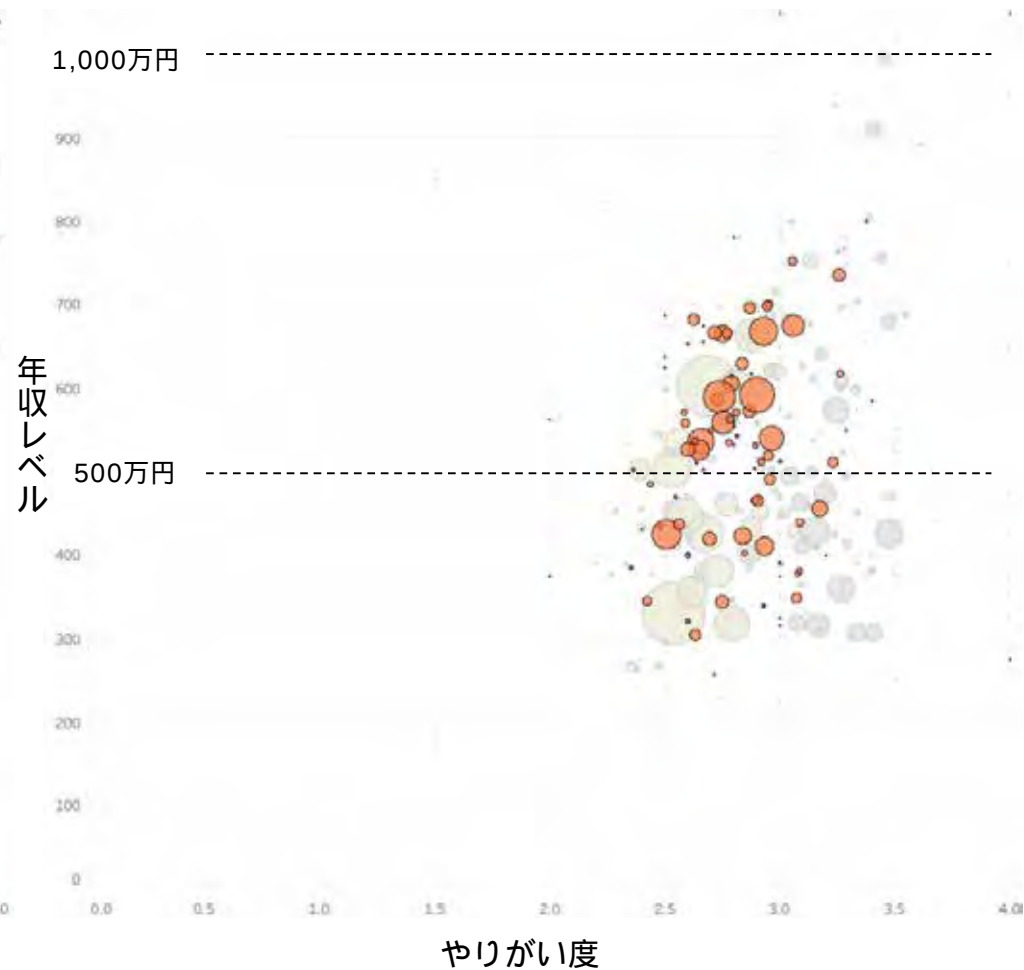
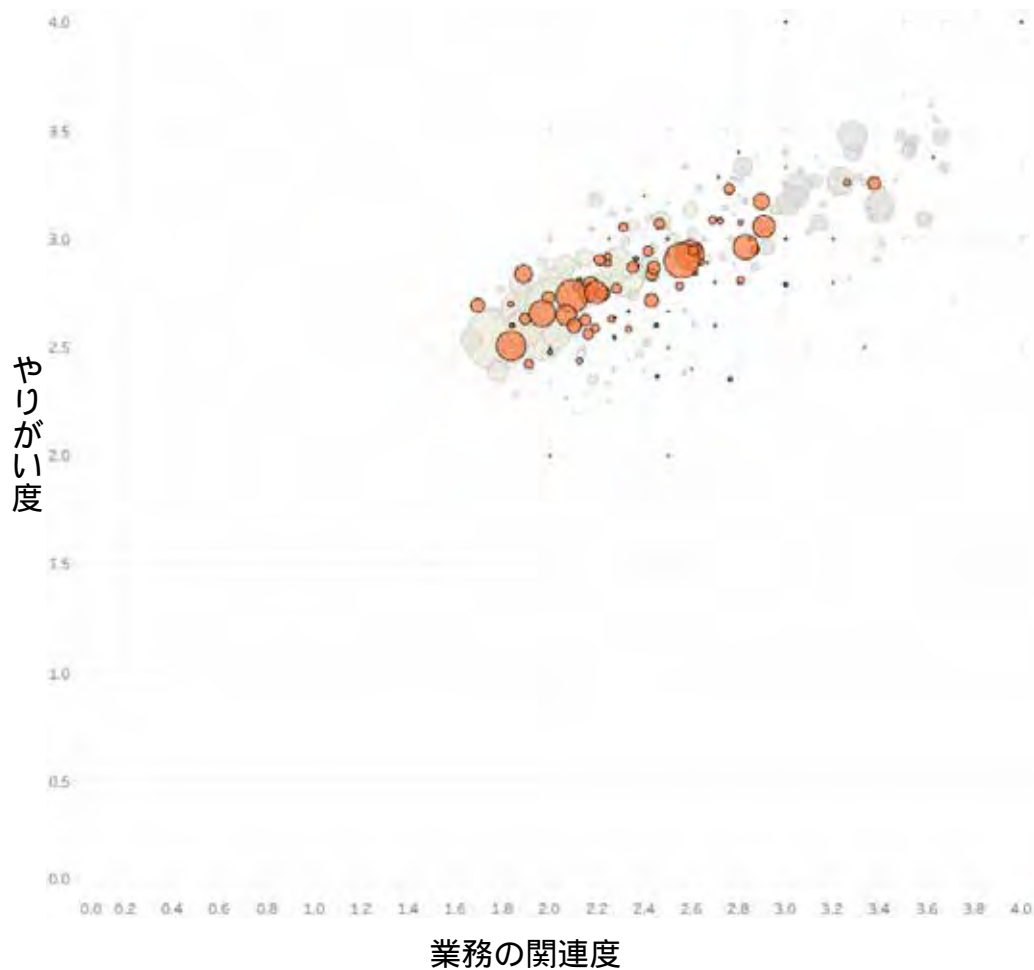
「見える化」分析の方法

属性（職種×性別×最終学歴）ごとに出身専門分野と業務の関連度合（順序尺度）、やりがい（順序尺度）、年収レベル（金額）の平均値を算定、プロットする。



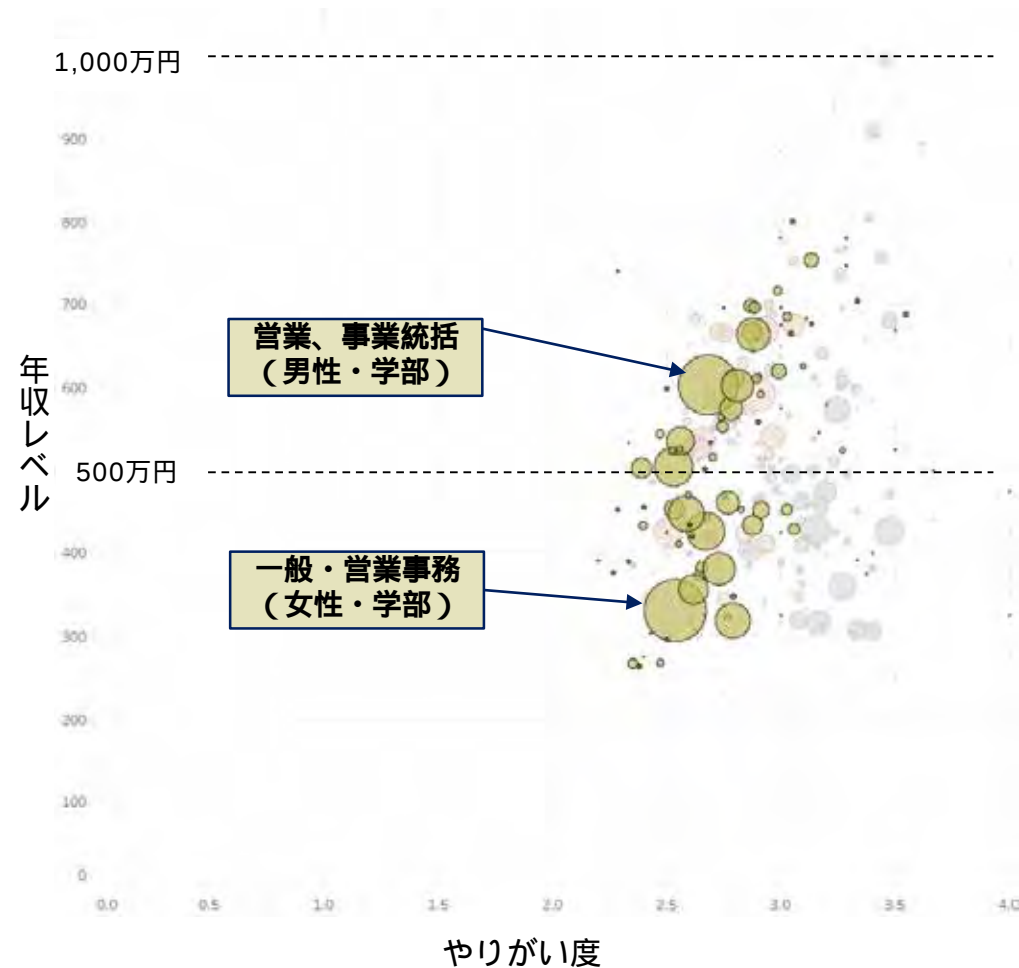
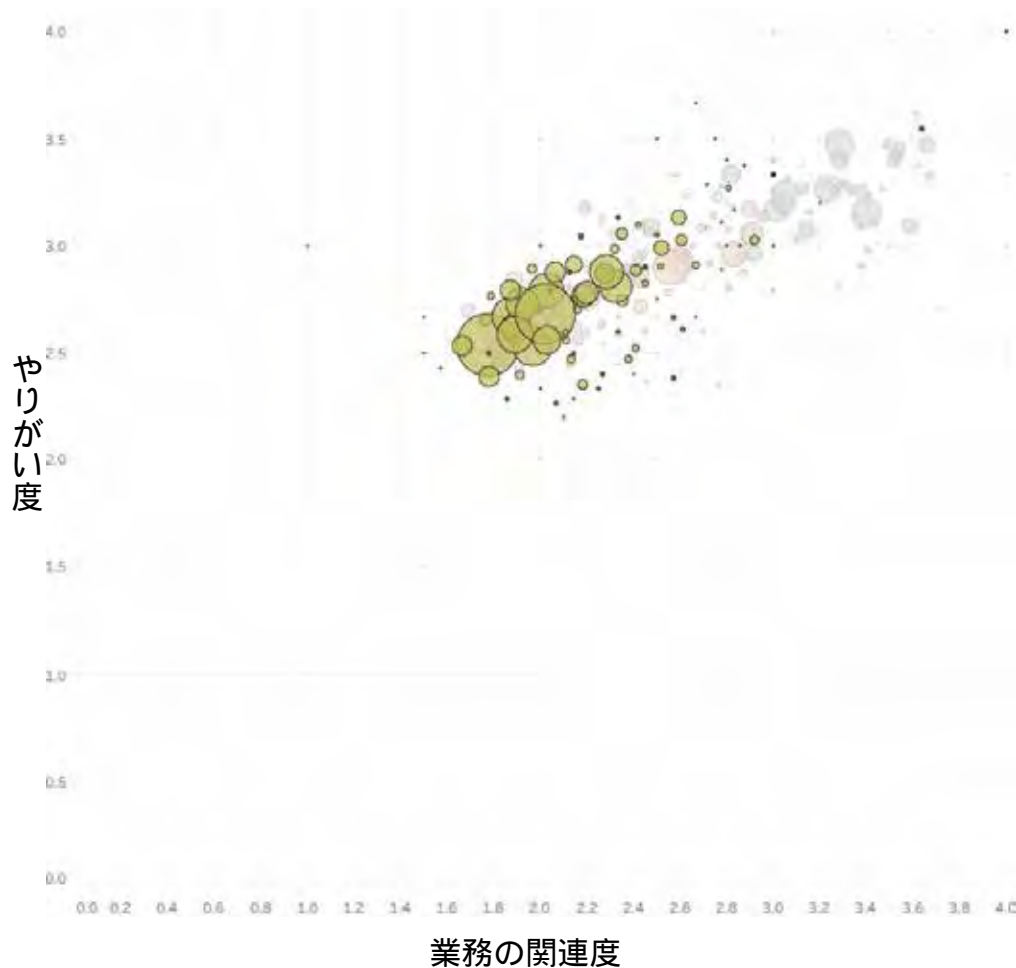
出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（職種による色分け）

■ 技術系：n = 11,249 ■ 事務系：n = 22,984 ■ 専門職：n = 8,740



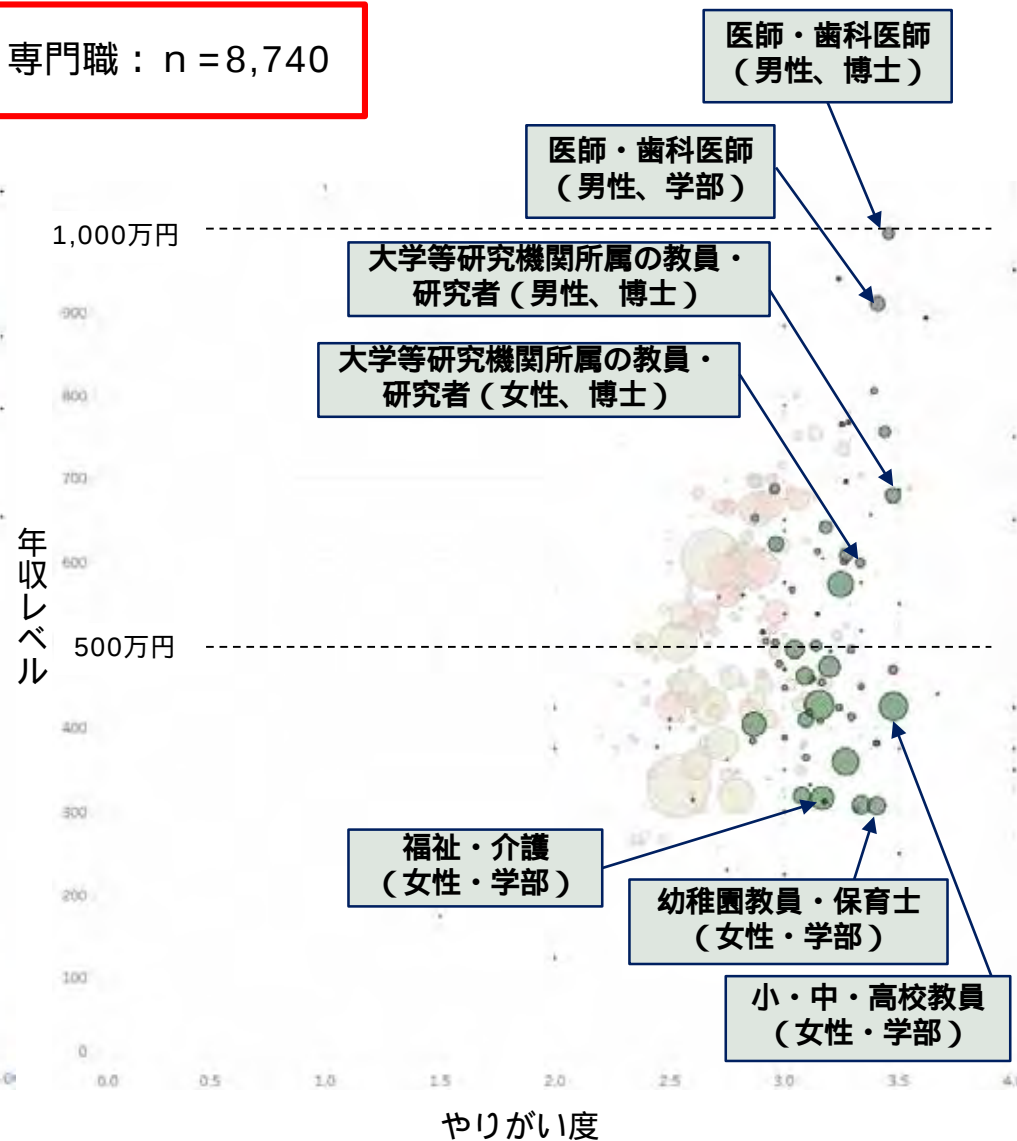
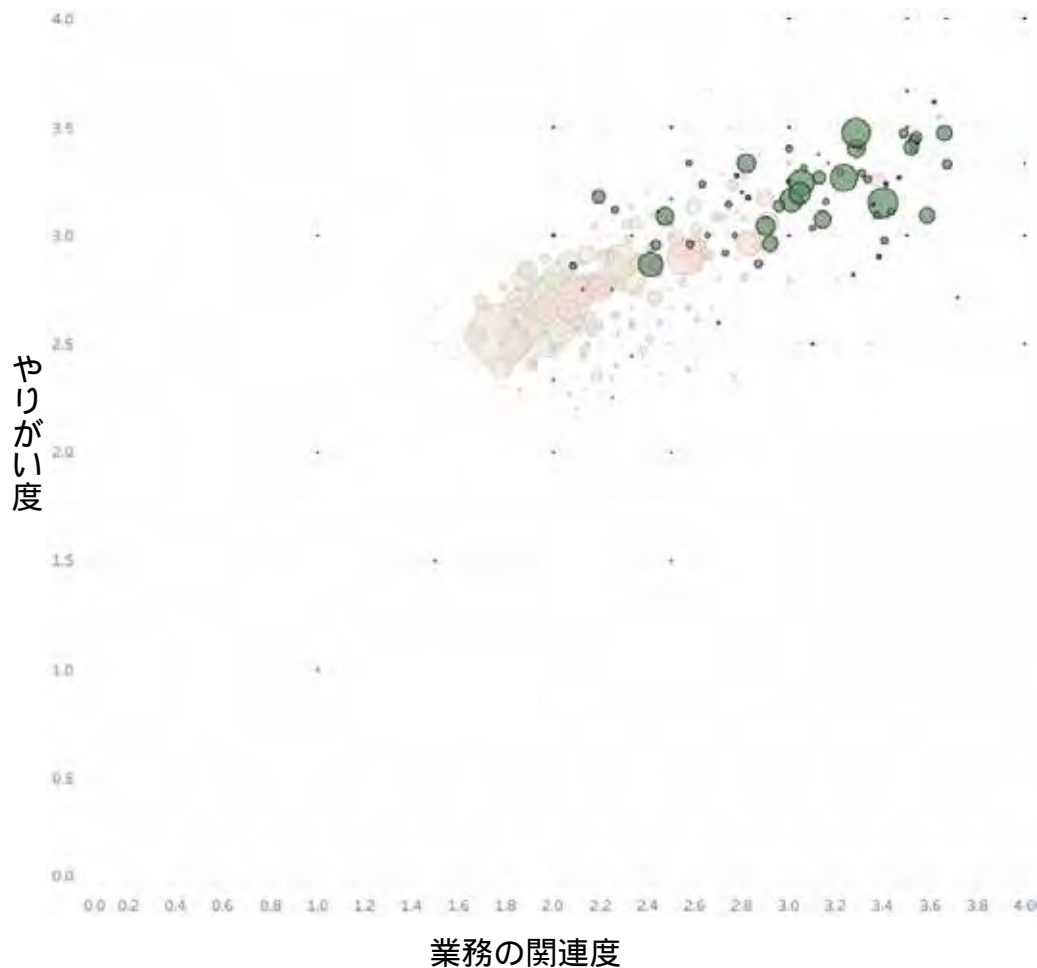
出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（職種による色分け）

■ 技術系：n = 11,249 ■ 事務系：n = 22,984 ■ 専門職：n = 8,740



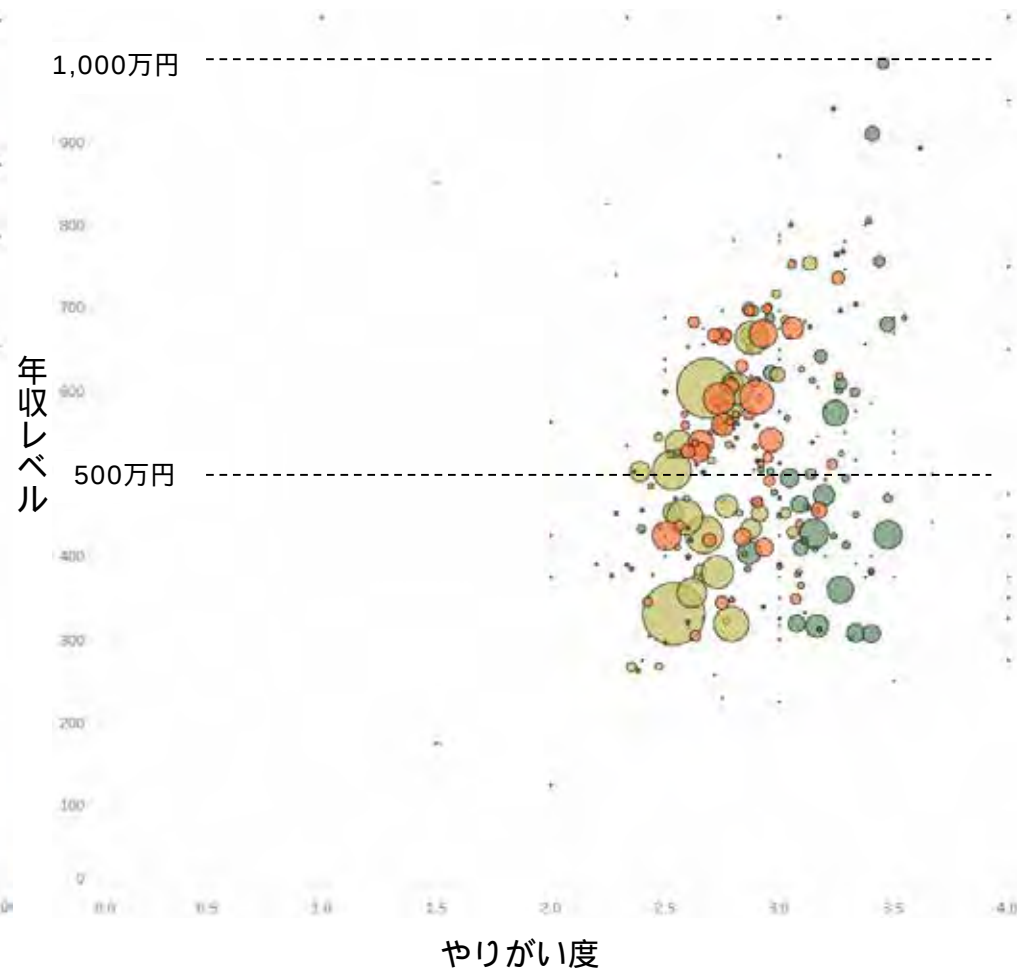
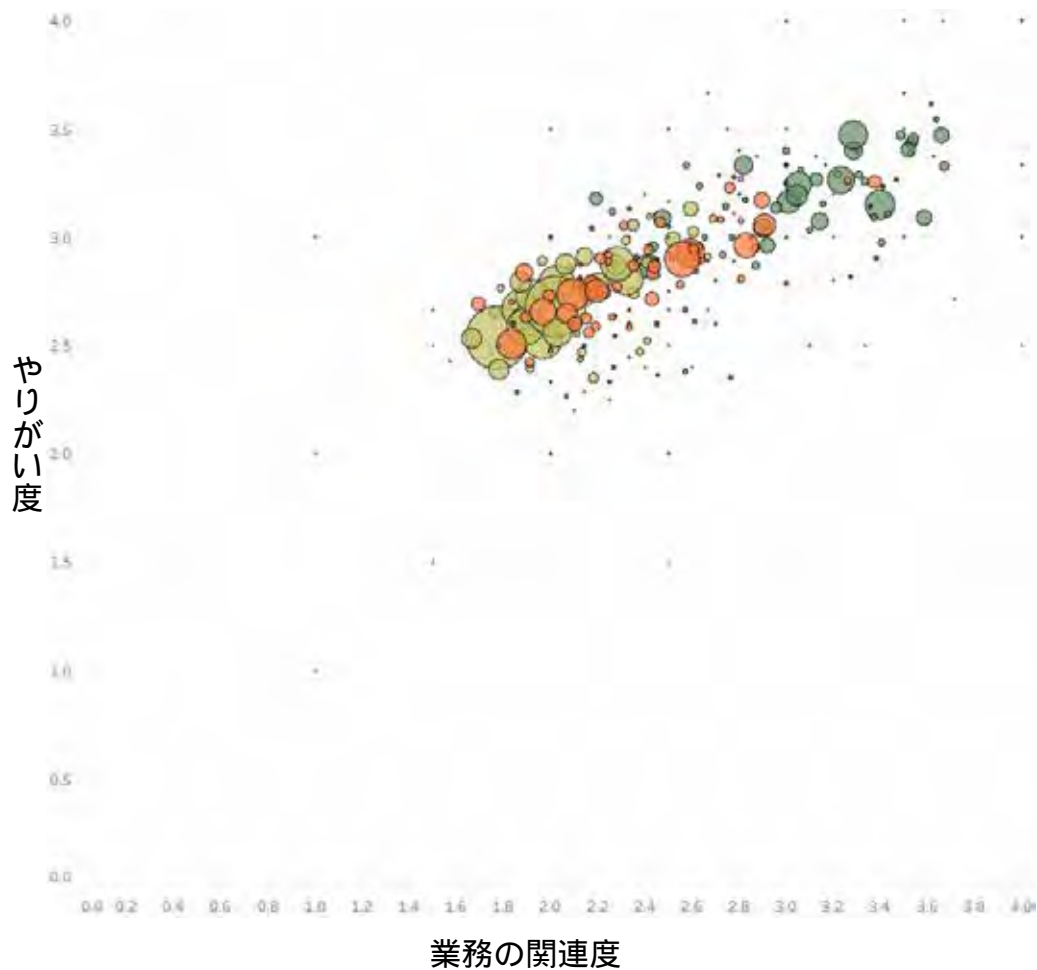
出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（職種による色分け）

■ 技術系：n = 11,249 ■ 事務系：n = 22,984 ■ 専門職：n = 8,740



出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（職種による色分け）

■ 技術系：n = 11,249 ■ 事務系：n = 22,984 ■ 専門職：n = 8,740

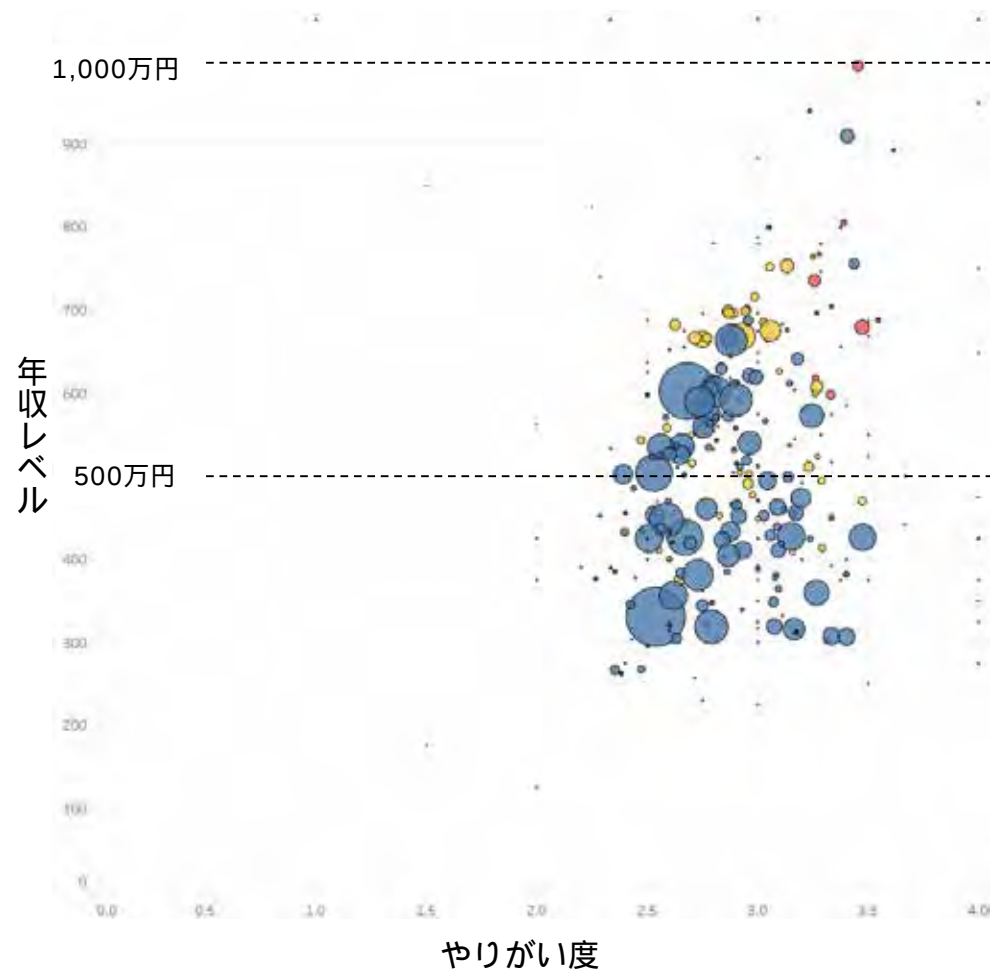
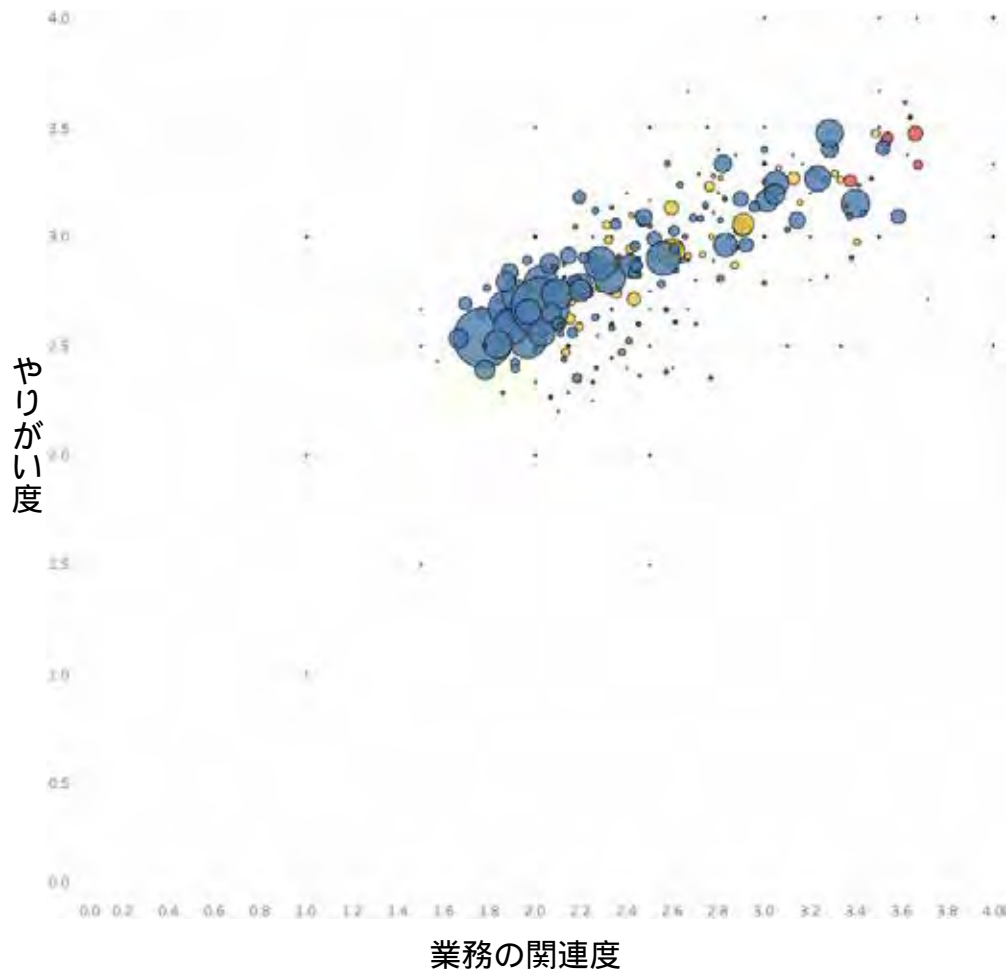


出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、 年収レベルの関係性

(2) 技術系、事務系、専門職における 最終学歴の違いによる分析

出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（全職種：最終学歴による色分け）

■ 高専、学部：n=36,983 ■ 修士：n=4,950 ■ 博士：n=1,040



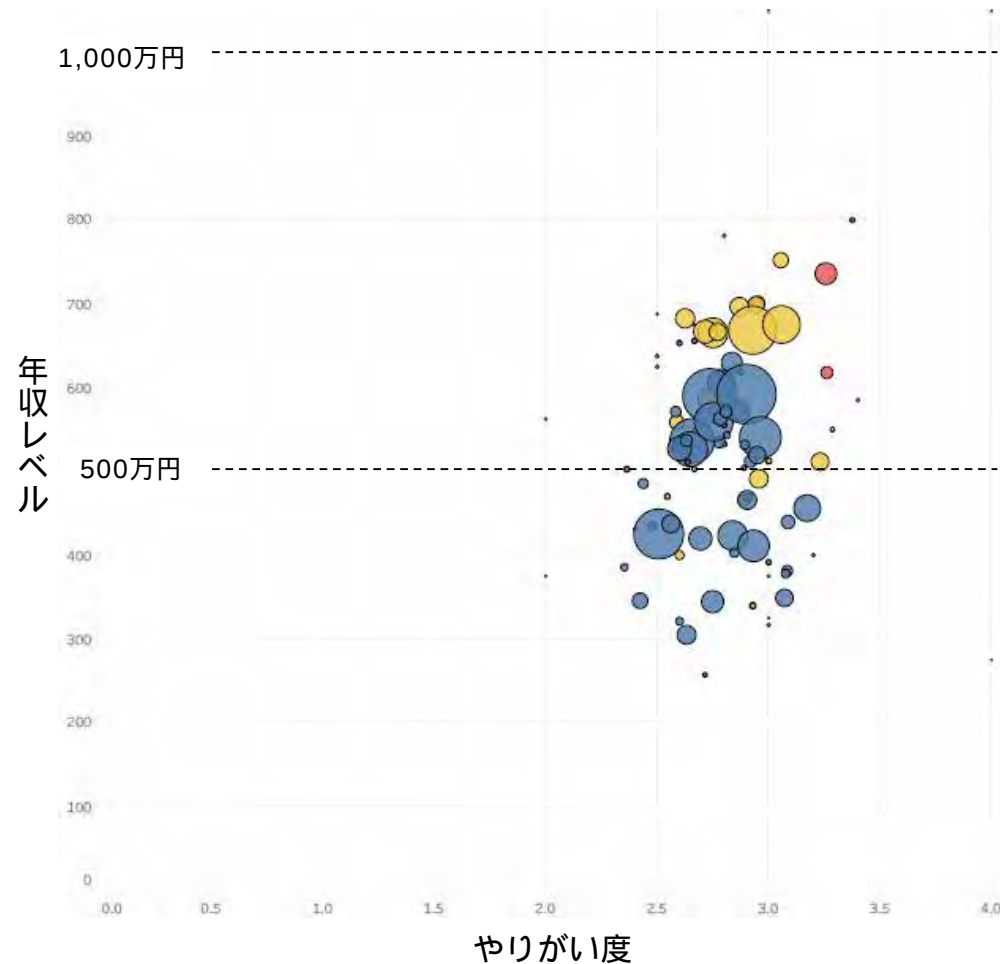
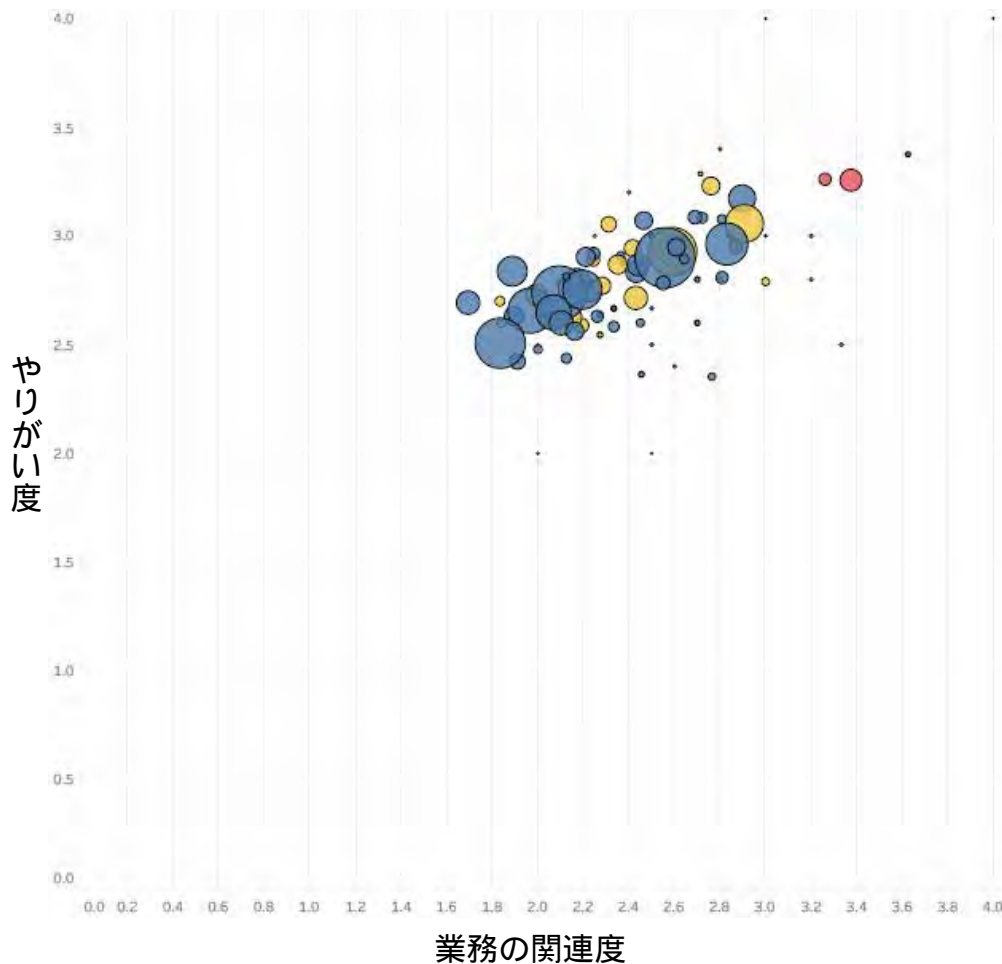
出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（技術系）

回答者数一覧（職種×性別×最終学歴）

（技術系）			最終学歴			合計
			高専・大学	修士	博士	
職種	基礎・応用研究、先行開発	男性	622	455	152	1,229
		女性	258	100	46	404
	設計・開発	男性	1,247	747	61	2,055
		女性	359	112	10	481
	生産技術（プラント系）	男性	186	114	6	306
		女性	32	10	3	45
	生産技術（プラント系以外）	男性	213	120	8	341
		女性	28	11	1	40
	製造・施工	男性	910	68	5	983
		女性	134	14	0	148
	生産管理・施工管理	男性	532	96	6	634
		女性	85	9	2	96
	品質管理・評価	男性	424	172	11	607
		女性	181	45	1	227
	システムエンジニア	男性	1,006	288	9	1,303
		女性	301	30	1	332
	保守・メンテナンス・維持管理等	男性	703	140	9	852
		女性	183	25	3	211
	セールスエンジニア・技術営業	男性	256	74	5	335
		女性	51	7	0	58
	技術系企画・調査、コンサルタント	男性	149	89	8	246
		女性	50	19	0	69
	コンテンツ制作・編集＜クリエイティブ系＞	男性	125	13	1	139
		女性	104	4	0	108
	合計	男性	6,373	2,376	281	9,030
		女性	1,766	386	67	2,219

出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（技術系：最終学歴）

■ 高専、学部：n=8,139 ■ 修士：n=2,762 ■ 博士：n=348



出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（技術系：最終学歴×年齢）

～29歳

30～39歳

40歳～44歳

■ 高専、学部：n=1,447 ■ 修士：n=428 ■ 博士：n=49

■ 高専、学部：n=3,726 ■ 修士：n=1,437 ■ 博士：n=164

■ 高専、学部：n=2,966 ■ 修士：n=897 ■ 博士：n=135

やりがい度

やりがい度

やりがい度

業務の関連度

業務の関連度

業務の関連度

2019年調査で新たに
みられるようになった傾向

1,000万円

1,000万円

1,000万円

500万円

500万円

500万円

年収レベル

年収レベル

年収レベル

やりがい度

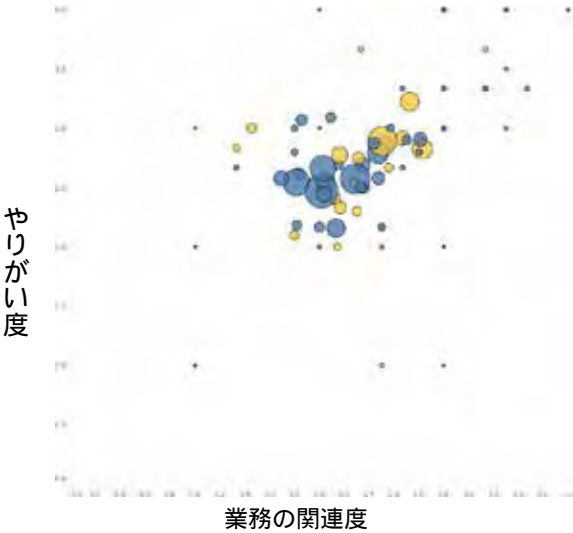
やりがい度

やりがい度

(参考) 出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性 (技術系：最終学歴×年齢、2014年度)

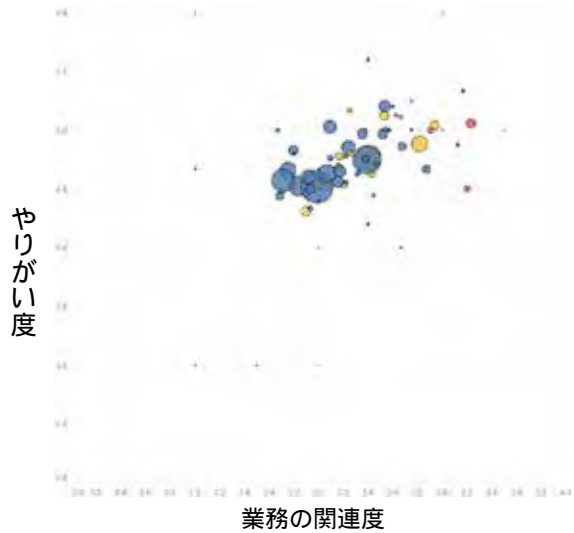
～29歳

■ 高専、学部：n=861 ■ 修士：n=367 ■ 博士：n=22



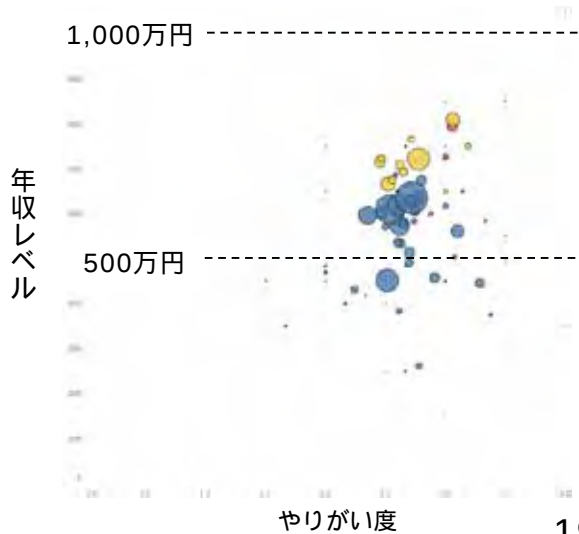
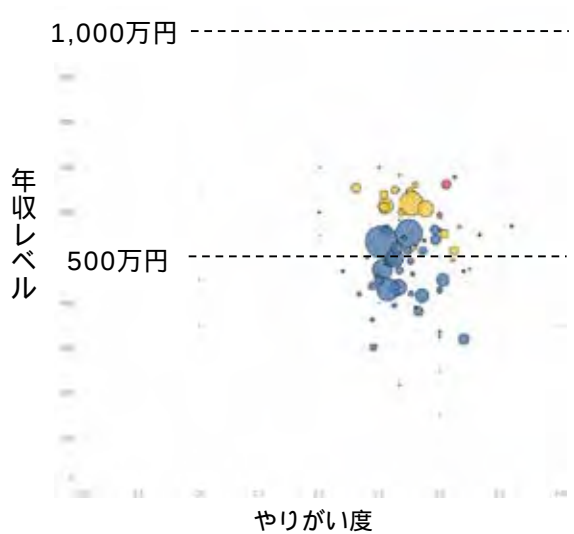
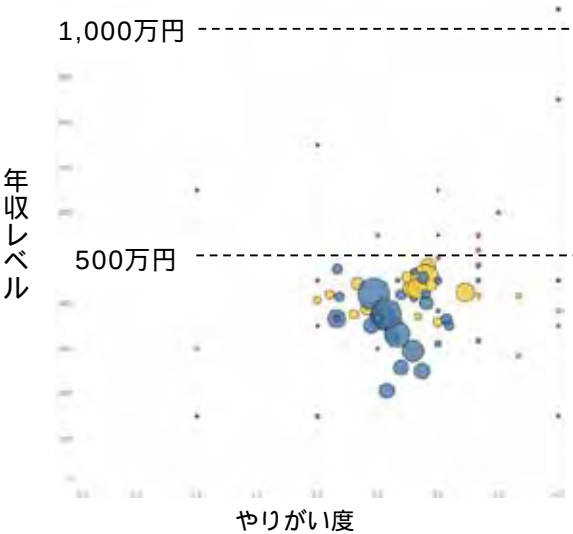
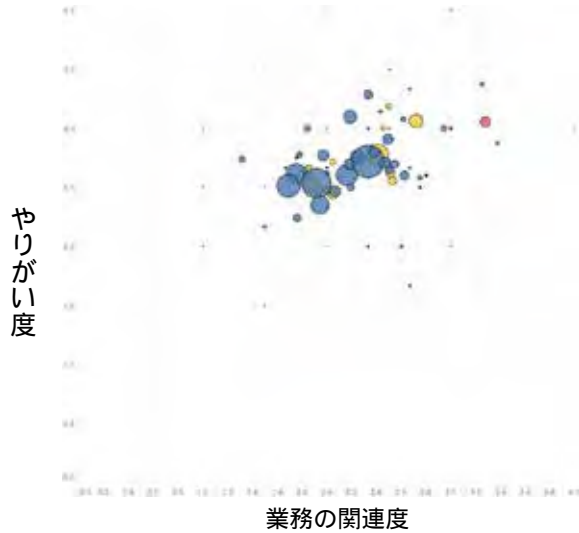
30～39歳

■ 高専、学部：n=3,407 ■ 修士：n=1,226 ■ 博士：n=127



40歳～44歳

■ 高専、学部：n=2,896 ■ 修士：n=795 ■ 博士：n=102



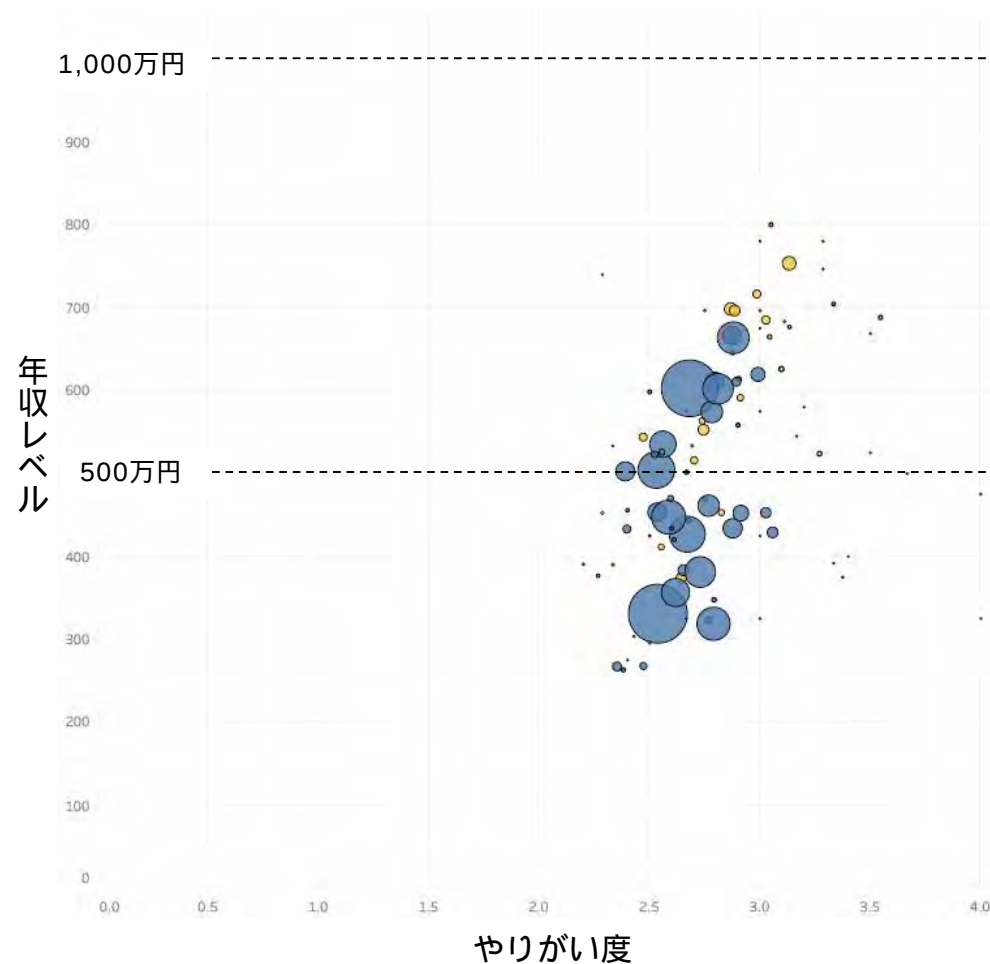
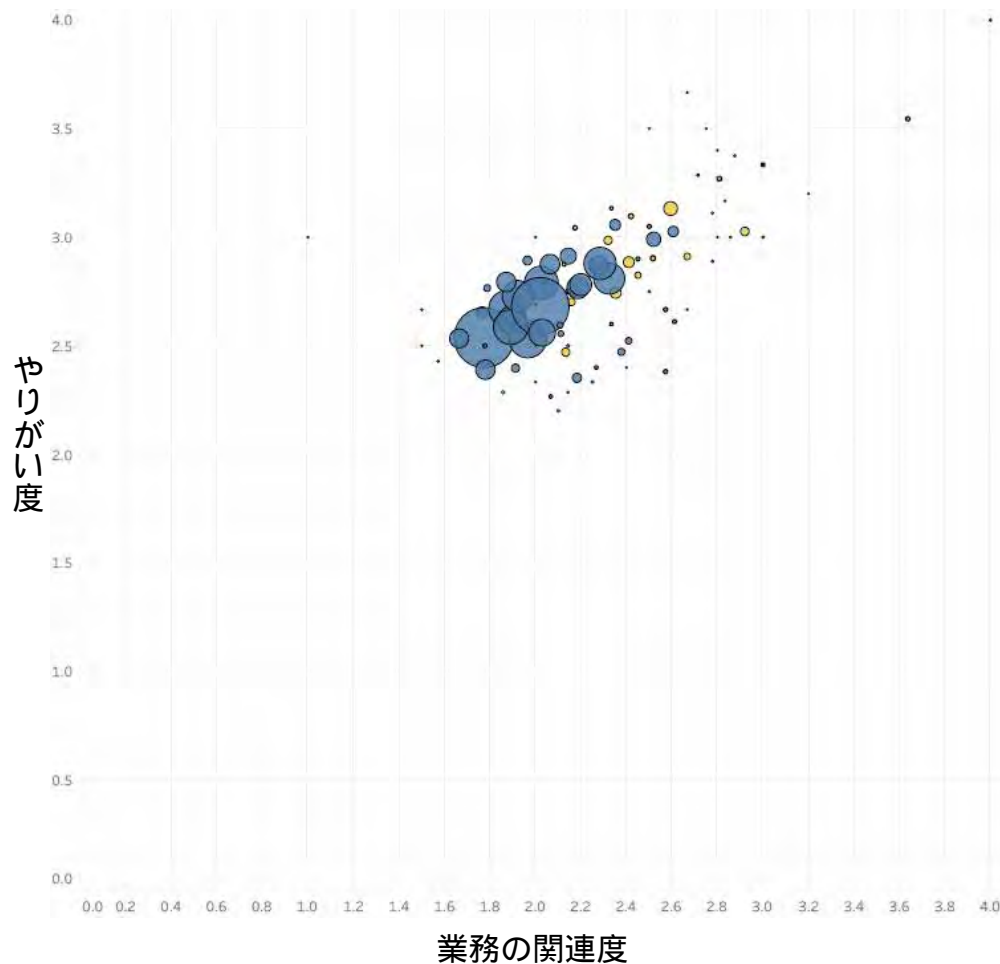
出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（事務系）

回答者数一覧（職種×性別×最終学歴）

（事務系）			最終学歴			合計
			高専・大学	修士	博士	
職種	事業推進・企画、経営企画	男性	1,103	197	20	1,320
		女性	498	45	7	550
	商品企画、マーケティング（調査）	男性	357	69	5	431
		女性	267	26	3	296
	経理・会計・財務・金融・ファイナンス 等	男性	1,016	122	7	1,145
		女性	1,024	40	4	1,068
	法務、知的財産・特許、その他司法業務専門職	男性	215	75	22	312
		女性	115	31	18	164
	人事・労務・研修、その他人事系専門職	男性	520	31	5	556
		女性	407	15	7	429
	総務	男性	754	68	7	829
		女性	858	38	6	902
	営業、営業企画、事業統括	男性	3,460	165	8	3,633
		女性	1,405	42	1	1,448
	宣伝、広報、I R	男性	86	9	1	96
		女性	123	5	0	128
	サービス・販売系業務	男性	1,304	57	10	1,371
		女性	1,230	28	2	1,260
	一般・営業事務	男性	1,474	125	15	1,614
		女性	3,795	115	9	3,919
	調達、物流、資材・商品管理	男性	405	23	0	428
		女性	134	13	3	150
	輸送・運搬、清掃、包装	男性	405	14	2	421
		女性	52	0	1	53
	保安（警察・消防・警備等）等	男性	406	16	3	425
		女性	34	2	0	36
	合計	男性	11,505	971	105	12,581
		女性	9,942	400	61	10,403

出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（事務系：最終学歴）

■ 高専、学部：n=21,447 ■ 修士：n=1,371 ■ 博士：n=166



出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（事務系：最終学歴×年齢）

～29歳

30～39歳

40歳～44歳

■ 高専、学部：n=4,363 ■ 修士：n=126 ■ 博士：n=9

■ 高専、学部：n=10,587 ■ 修士：n=691 ■ 博士：n=94

■ 高専、学部：n=6,497 ■ 修士：n=554 ■ 博士：n=63

やりがい度

やりがい度

やりがい度

業務の関連度

業務の関連度

業務の関連度

1,000万円

1,000万円

1,000万円

年収レベル

年収レベル

年収レベル

500万円

500万円

500万円

やりがい度

やりがい度

やりがい度

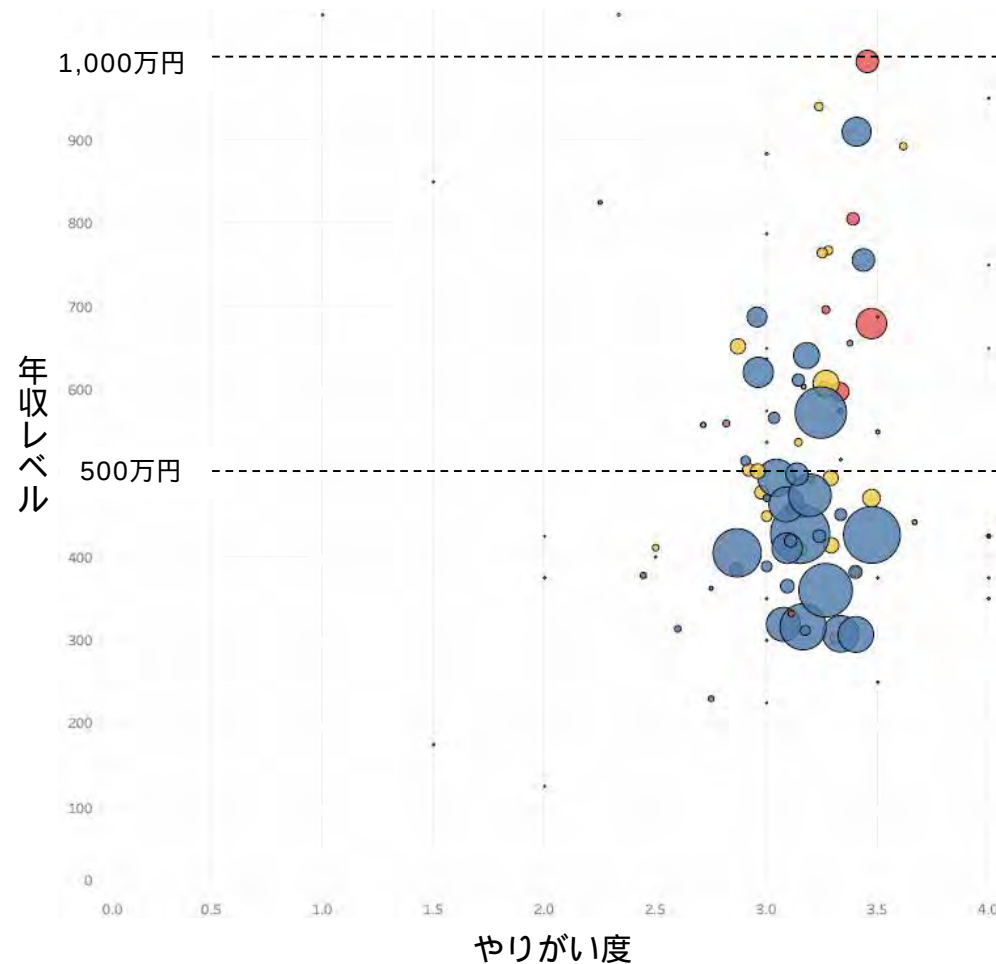
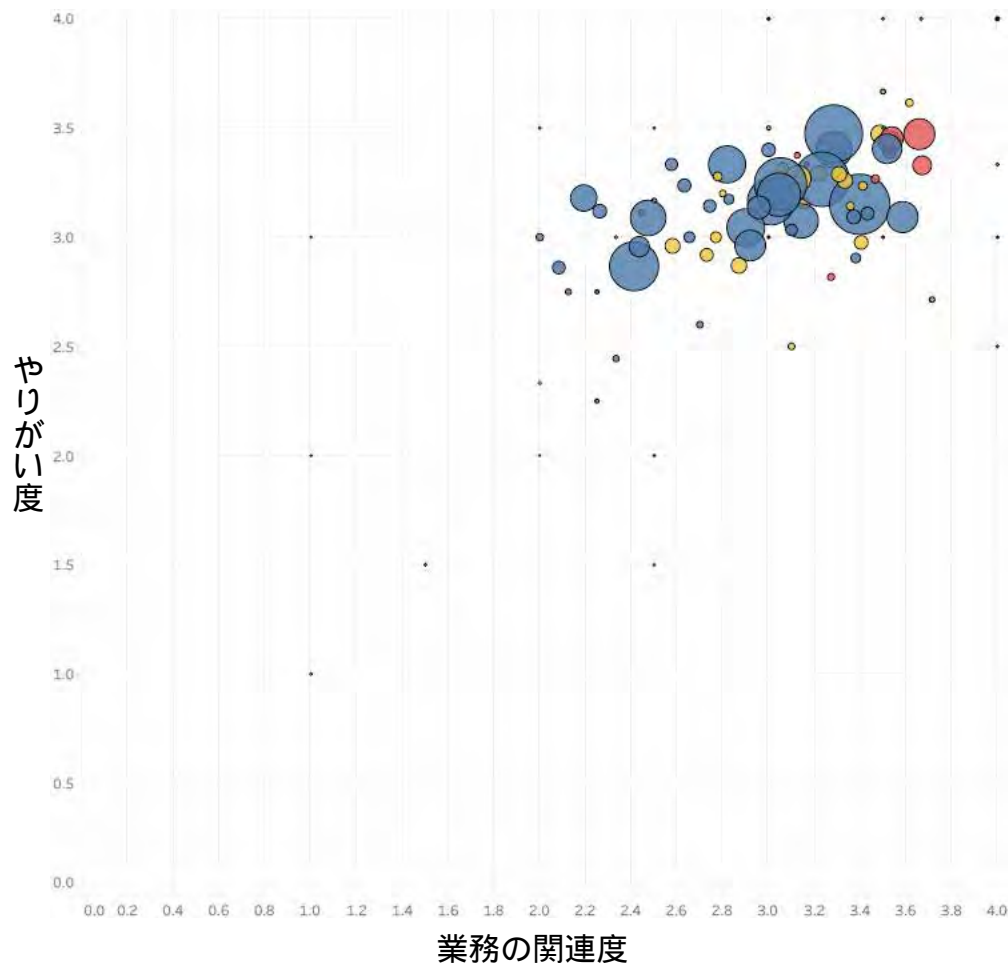
出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（専門職）

回答者数一覧（職種×性別×最終学歴）

（専門職）			最終学歴			合計
			高専・大学	修士	博士	
職種	コンサルタント（ビジネス系等）	男性	94	24	3	121
		女性	44	6	0	50
	経営者、会社役員	男性	168	18	2	188
		女性	39	3	4	46
	医師・歯科医師	男性	196	17	117	330
		女性	117	13	36	166
	薬剤師等	男性	215	54	15	284
		女性	323	37	6	366
	看護・助産・保健等業務	男性	138	14	1	153
		女性	1,033	42	1	1,076
	医療系専門職（臨床検査技師・理学療法士等）	男性	458	52	11	521
		女性	710	55	3	768
	福祉・介護関連業務・関連専門職	男性	567	26	4	597
		女性	517	20	2	539
	獣医師、獣医関連業務	男性	31	7	2	40
		女性	44	10	1	55
	栄養・調理関連業務	男性	46	2	0	48
		女性	269	10	0	279
	小学校・中学校・高校教員など	男性	617	157	8	782
		女性	751	72	2	825
	大学等研究機関所属の教員・研究者	男性	37	54	214	305
		女性	42	32	79	153
	幼稚園教員、保育士等	男性	35	4	1	40
		女性	302	6	1	309
	その他教育機関教員、インストラクター	男性	292	50	9	351
		女性	312	32	4	348
	合計	男性	2,894	479	387	3,760
		女性	4,503	338	139	4,980

出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（専門職：最終学歴）

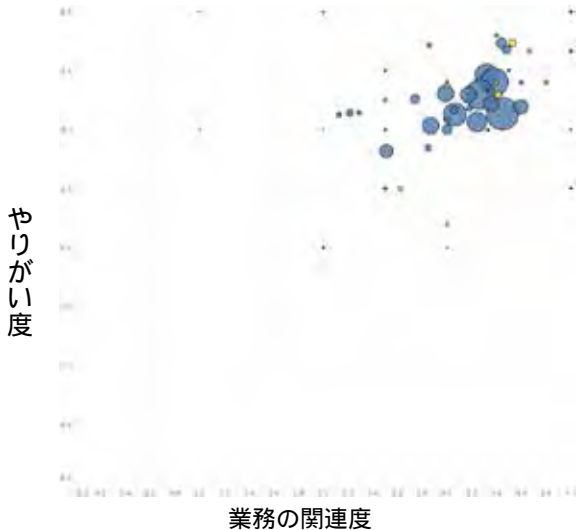
■ 高専、学部：n = 7,397 ■ 修士：n = 817 ■ 博士：n = 526



出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、年収レベルの関係性（専門職：最終学歴×年齢）

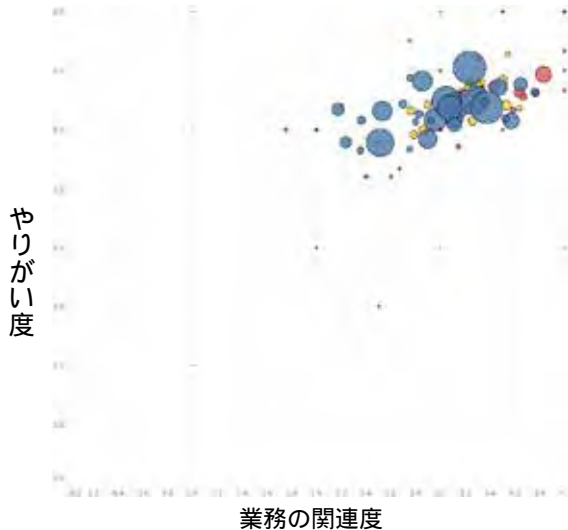
～29歳

■ 高専、学部：n=2,042 ■ 修士：n=109 ■ 博士：n=17



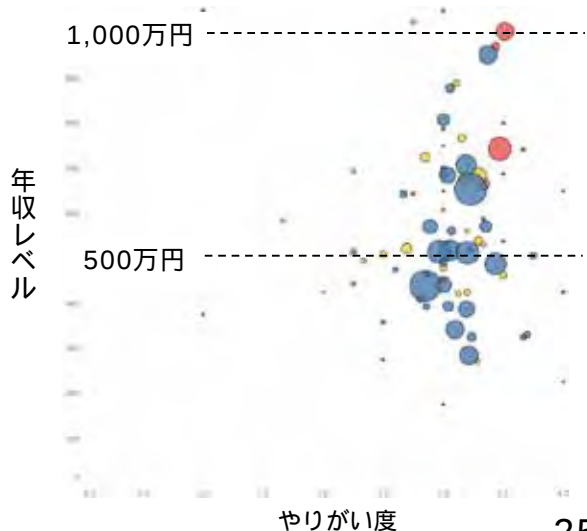
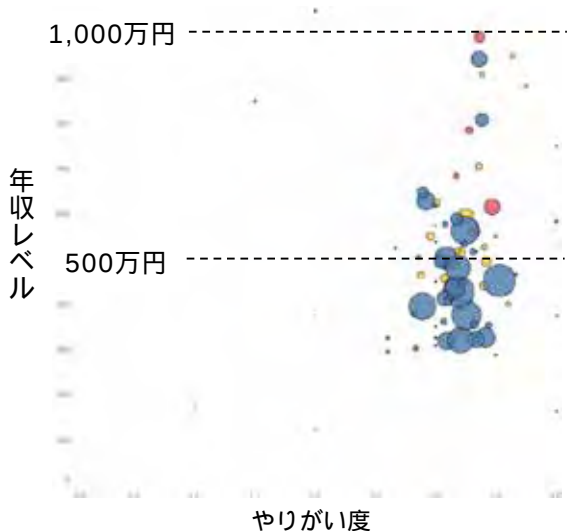
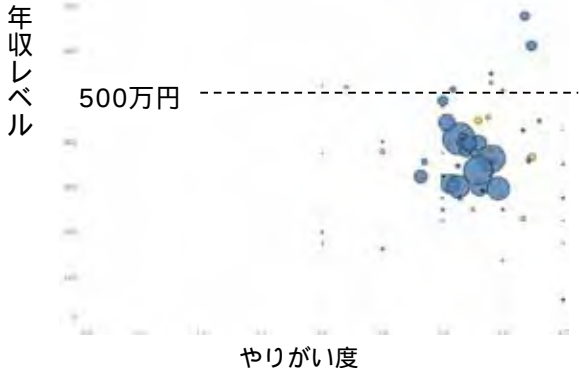
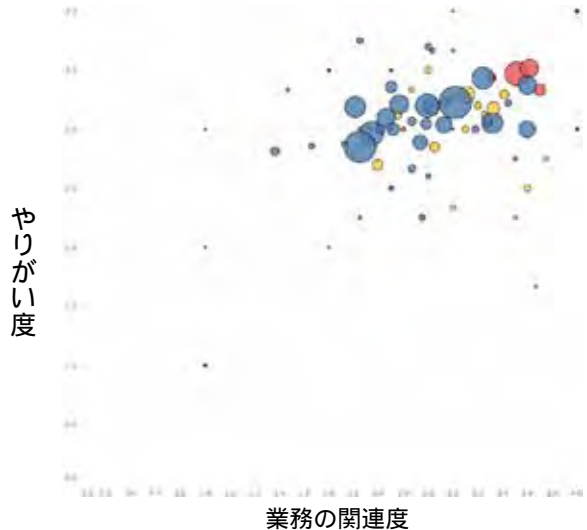
30～39歳

■ 高専、学部：n=3,718 ■ 修士：n=445 ■ 博士：n=245



40歳～44歳

■ 高専、学部：n=1,637 ■ 修士：n=263 ■ 博士：n=264



出典：内閣府 平成31年度（2019年度）科学技術基礎調査等委託事業「産業界と教育機関の人材の質的・量的需給マッチング状況調査」

○いずれの職種においても、業務との関連度、やりがい、年収レベルは、概ね、高専・学士＜修士＜博士の傾向がみられる。

○ 博士は事務職にはほとんど存在せず、技術系の研究・開発職または専門職の大学等教員・研究者に多くが存在。

○いずれの職種においても、年齢が20代、30代、40代と上昇するにつれ年収レベルが上昇する傾向がみられるが、20代の技術系研究職においては、近年博士の年収レベルが大幅に上昇している傾向がみられる。

**出身専門分野と業務の関連度合、やりがい、
年収レベルの関係性**

**(3) 産業界の研究・開発職および
アカデミアの研究者における
正規、非正規雇用の違いによる分析**

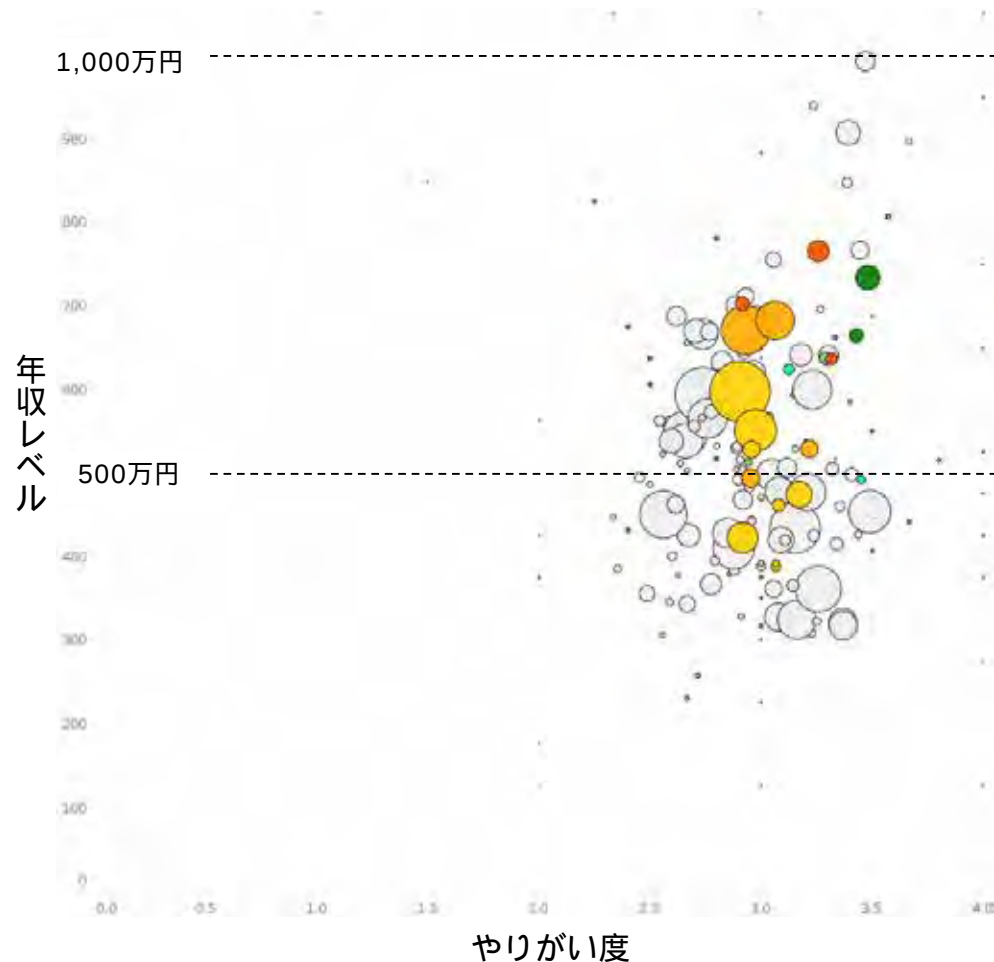
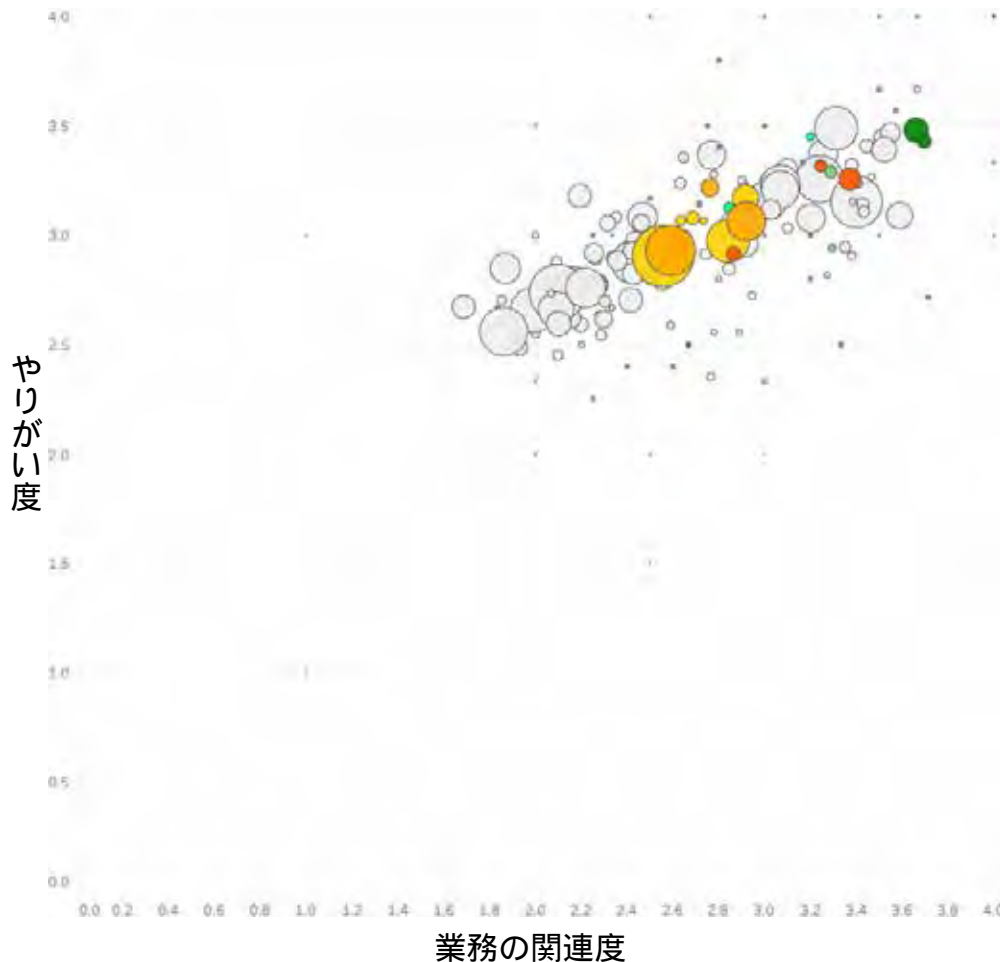
産業界の研究・開発職およびアカデミア研究者のやりがい、年収レベルの関係性（職種：正規）

産業界の研究者（基礎・応用研究、先行開発/設計・開発）

■ 高専、学部：n = 2,341 ■ 修士：n = 1,379 ■ 博士：n = 246

アカデミアの研究者（大学等研究機関所属の教員・研究者）

■ 高専、学部：n = 55 ■ 修士：n = 62 ■ 博士：n = 233



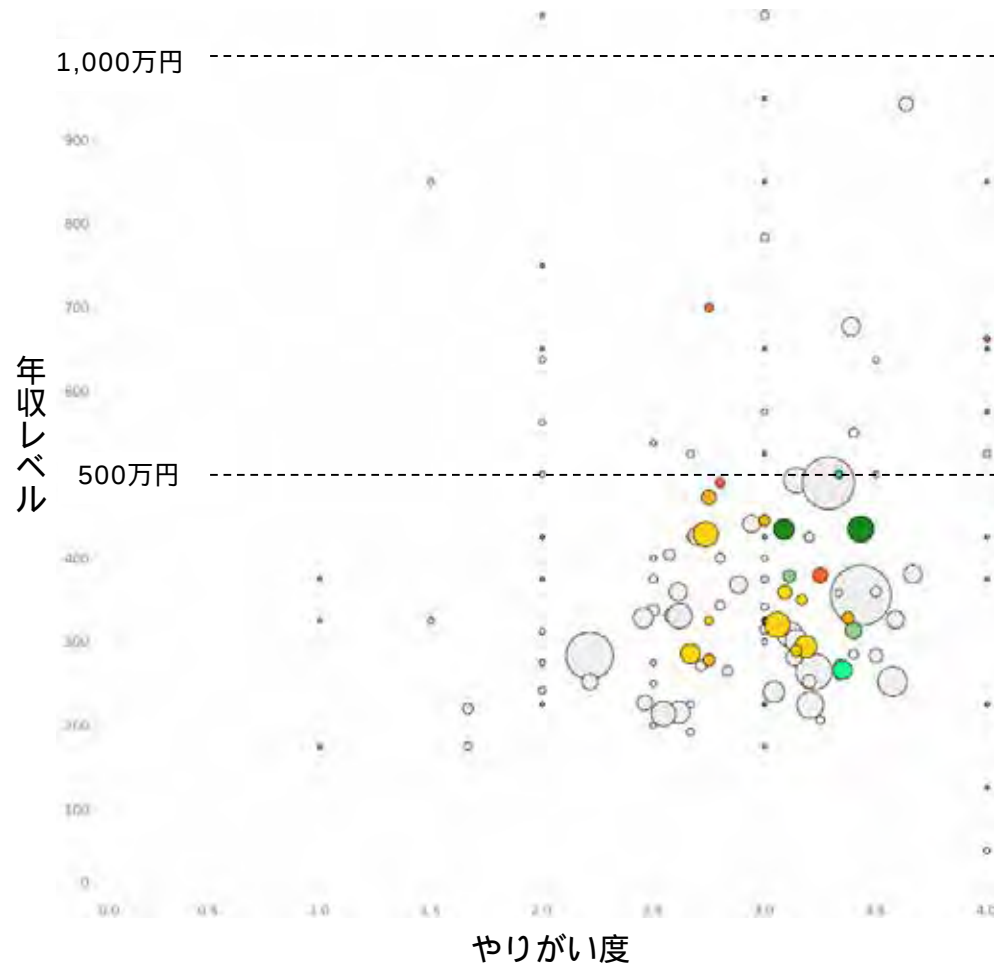
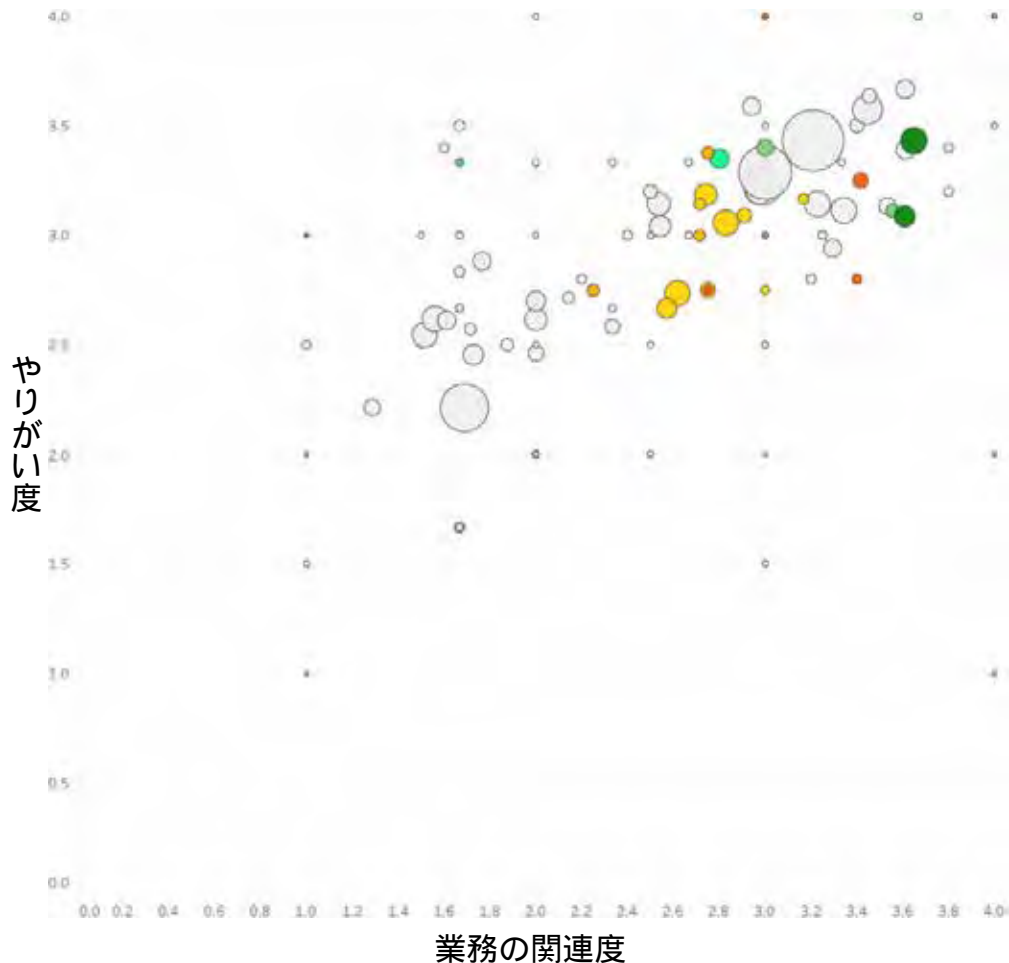
産業界の研究・開発職およびアカデミア研究者のやりがい、年収レベルの関係性（職種×非正規）

産業界の研究者（基礎・応用研究、先行開発/設計・開発）

■ 高専、学部：n = 145 ■ 修士：n = 35 ■ 博士：n = 23

アカデミアの研究者（大学等研究機関所属の教員・研究者）

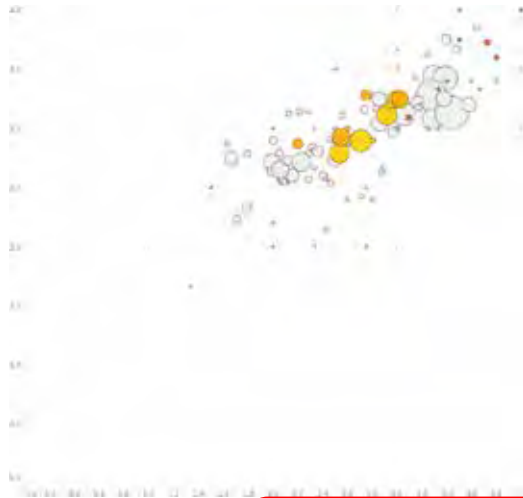
■ 高専、学部：n = 24 ■ 修士：n = 24 ■ 博士：n = 60



産業界の研究・開発職およびアカデミア研究者のやりがい、年収レベルの関係性（職種×年齢×正規）

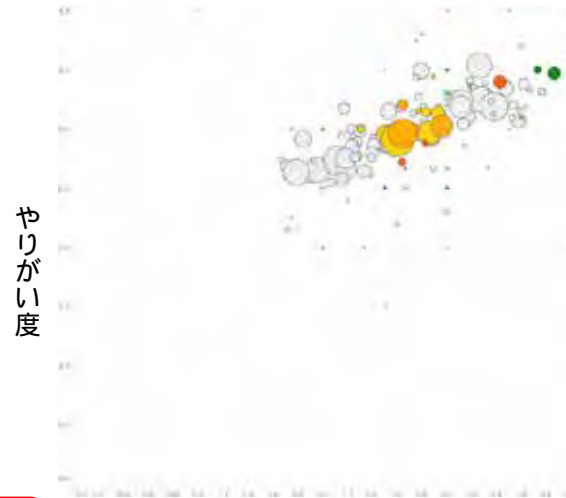
～29歳

（高専、学部） ■ 産業界：n=498 ■ アカデミア：n=8
 （修士） ■ 産業界：n=244 ■ アカデミア：n=5
 （博士） ■ 産業界：n=30 ■ アカデミア：n=5



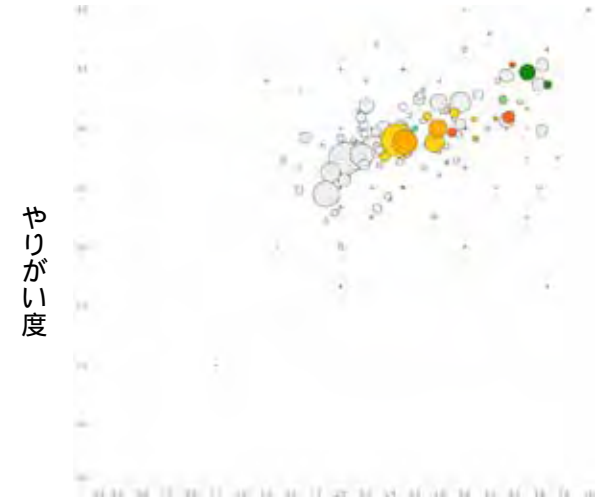
30～39歳

（高専、学部） ■ 産業界：n=1,094 ■ アカデミア：n=29
 （修士） ■ 産業界：n=728 ■ アカデミア：n=21
 （博士） ■ 産業界：n=117 ■ アカデミア：n=100

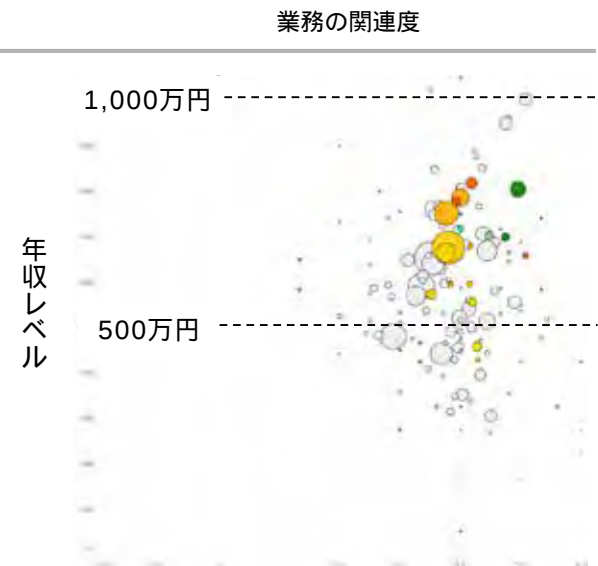
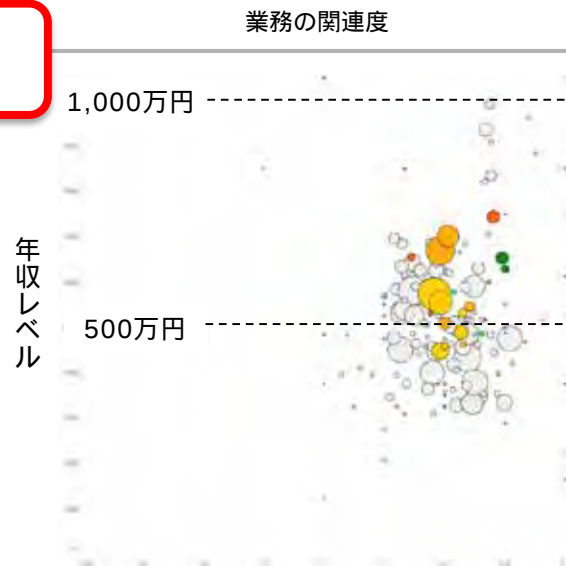
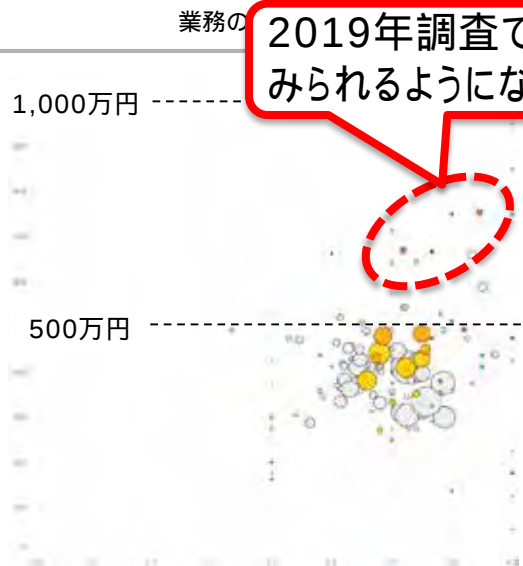


40歳～44歳

（高専、学部） ■ 産業界：n=749 ■ アカデミア：n=18
 （修士） ■ 産業界：n=407 ■ アカデミア：n=36
 （博士） ■ 産業界：n=99 ■ アカデミア：n=128



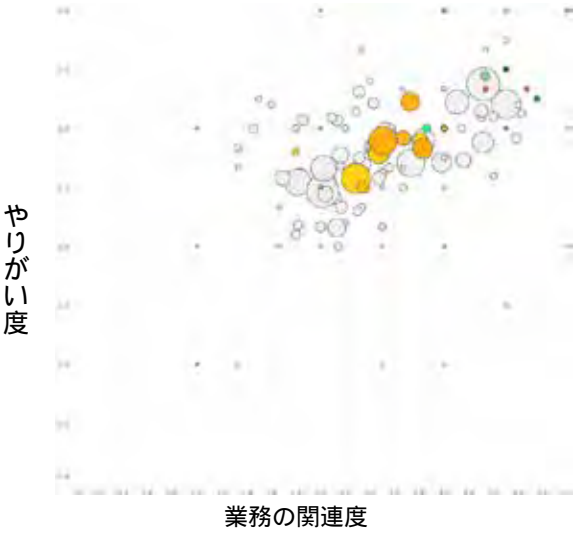
2019年調査で新たに
みられるようになった傾向



(参考) 産業界の研究・開発職およびアカデミア研究者のやりがい、年収レベルの関係性 (職種×年齢×正規、2014年度)

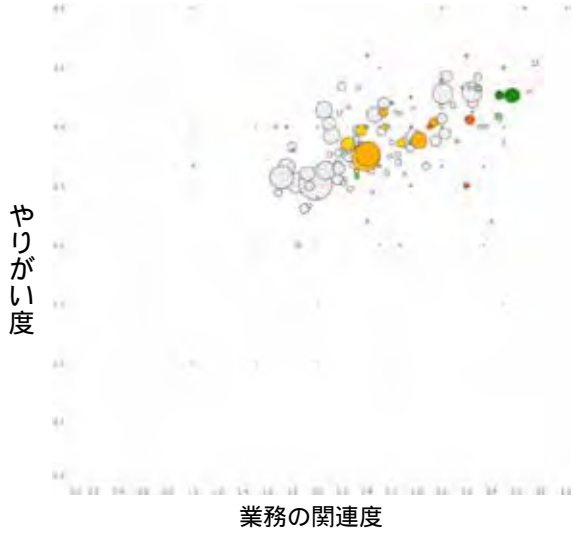
～29歳

(高専、学部) ■ 産業界: n = 211 ■ アカデミア: n = 7
(修士) ■ 産業界: n = 203 ■ アカデミア: n = 11
(博士) ■ 産業界: n = 8 ■ アカデミア: n = 8



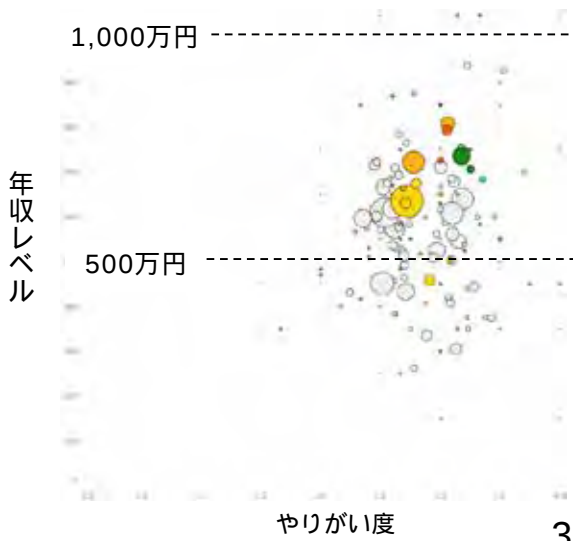
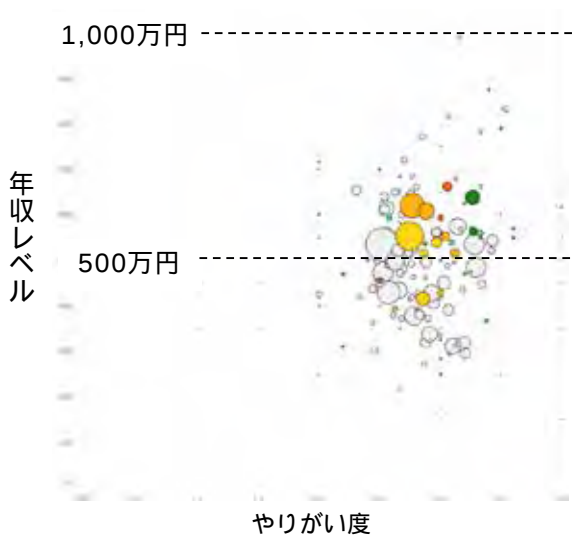
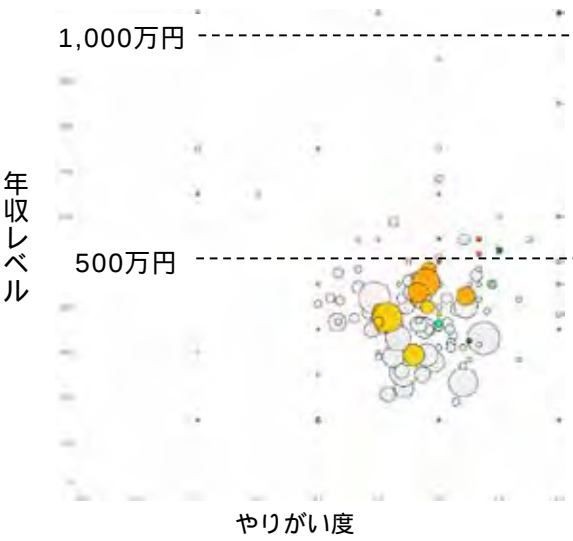
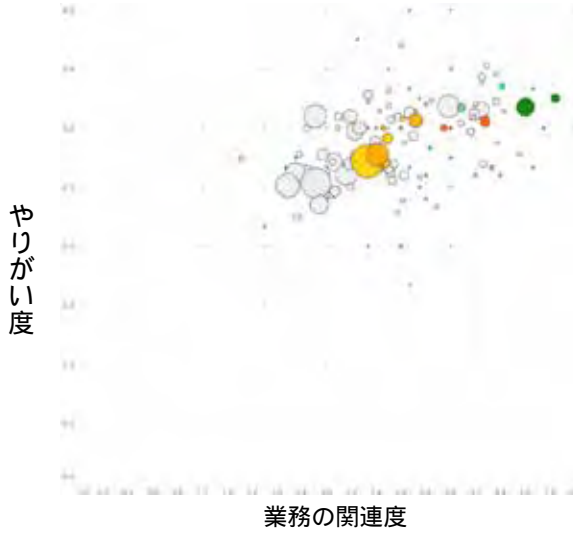
30～39歳

(高専、学部) ■ 産業界: n = 773 ■ アカデミア: n = 28
(修士) ■ 産業界: n = 639 ■ アカデミア: n = 53
(博士) ■ 産業界: n = 94 ■ アカデミア: n = 181



40歳～44歳

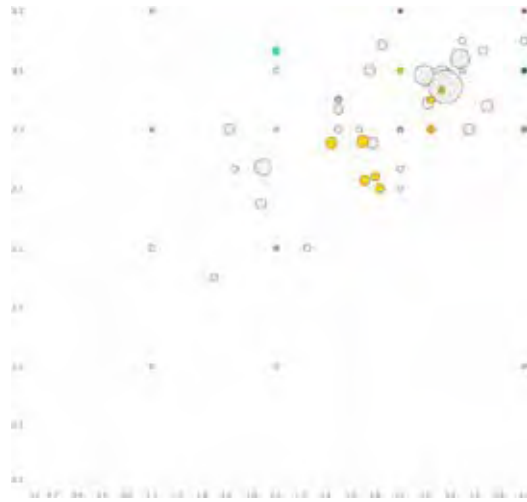
(高専、学部) ■ 産業界: n = 746 ■ アカデミア: n = 24
(修士) ■ 産業界: n = 381 ■ アカデミア: n = 44
(博士) ■ 産業界: n = 76 ■ アカデミア: n = 196



産業界の研究・開発職およびアカデミア研究者のやりがい、年収レベルの関係性（職種×年齢×非正規）

～29歳

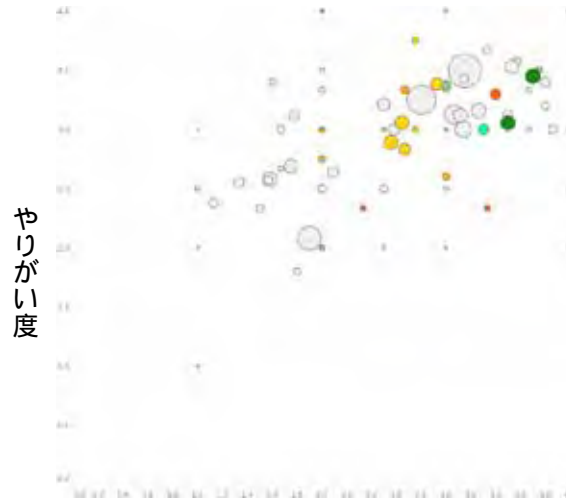
(高専、学部) ■ 産業界: n = 44 ■ アカデミア: n = 5
(修士) ■ 産業界: n = 9 ■ アカデミア: n = 4
(博士) ■ 産業界: n = 2 ■ アカデミア: n = 3



業務の関連度

30～39歳

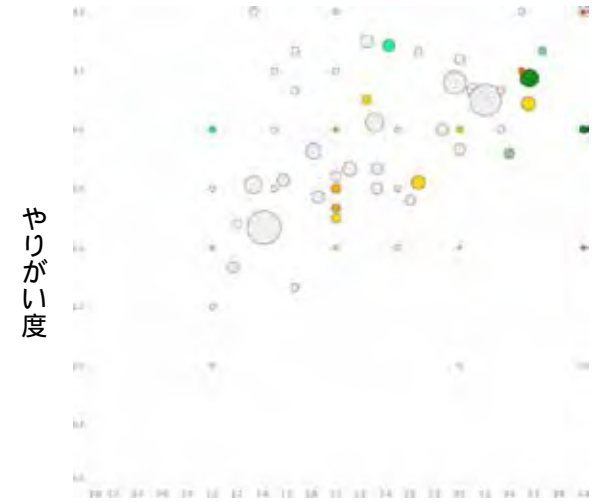
(高専、学部) ■ 産業界: n = 70 ■ アカデミア: n = 10
(修士) ■ 産業界: n = 18 ■ アカデミア: n = 12
(博士) ■ 産業界: n = 17 ■ アカデミア: n = 38



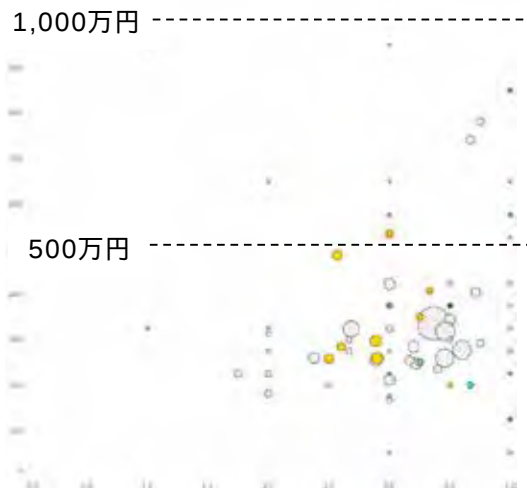
業務の関連度

40歳～44歳

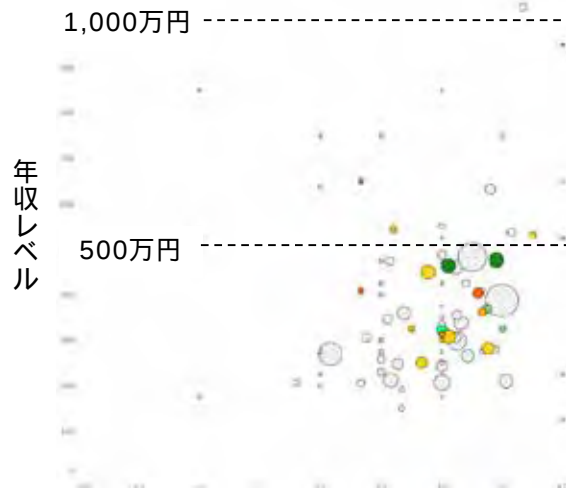
(高専、学部) ■ 産業界: n = 31 ■ アカデミア: n = 9
(修士) ■ 産業界: n = 8 ■ アカデミア: n = 8
(博士) ■ 産業界: n = 4 ■ アカデミア: n = 19



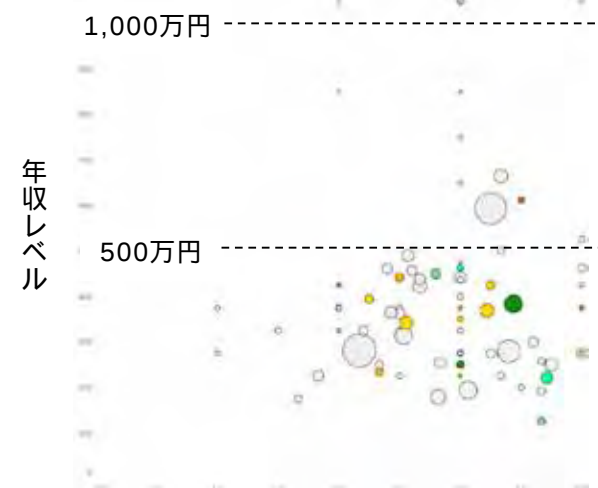
業務の関連度



やりがい度



やりがい度



やりがい度

- 正規職員の博士は、産業界研究職においてもアカデミア研究職においてもやりがいも高く、年収レベルも同等の高い水準。また、年齢が上昇するにつれ、年収レベルも上昇傾向。
- 一方、非正規職員の博士は、アカデミア研究職に多く存在し、やりがいは高いものの年収レベルは低い。また、年齢が上昇しても年収レベルの上昇傾向はみられない。
- 20代の技術系研究職において、近年博士の年収レベルが大幅に上昇しているのは正規職員であることがわかる。

産業界における学びニーズ・研究ニーズの分析

(1) 全業種および業種別傾向の分析

「見える化」分析の方法

業務で重要な専門知識分野（上位3分野）と事業展開・成長に重要な専門知識分野（上位3分野）に着目し、専門知識265分野上に回答者割合を取る。回答者割合の計算に際しては、分野ごとの回答割合を比較可能とし、全分野合計が100%となるよう計算・表示。

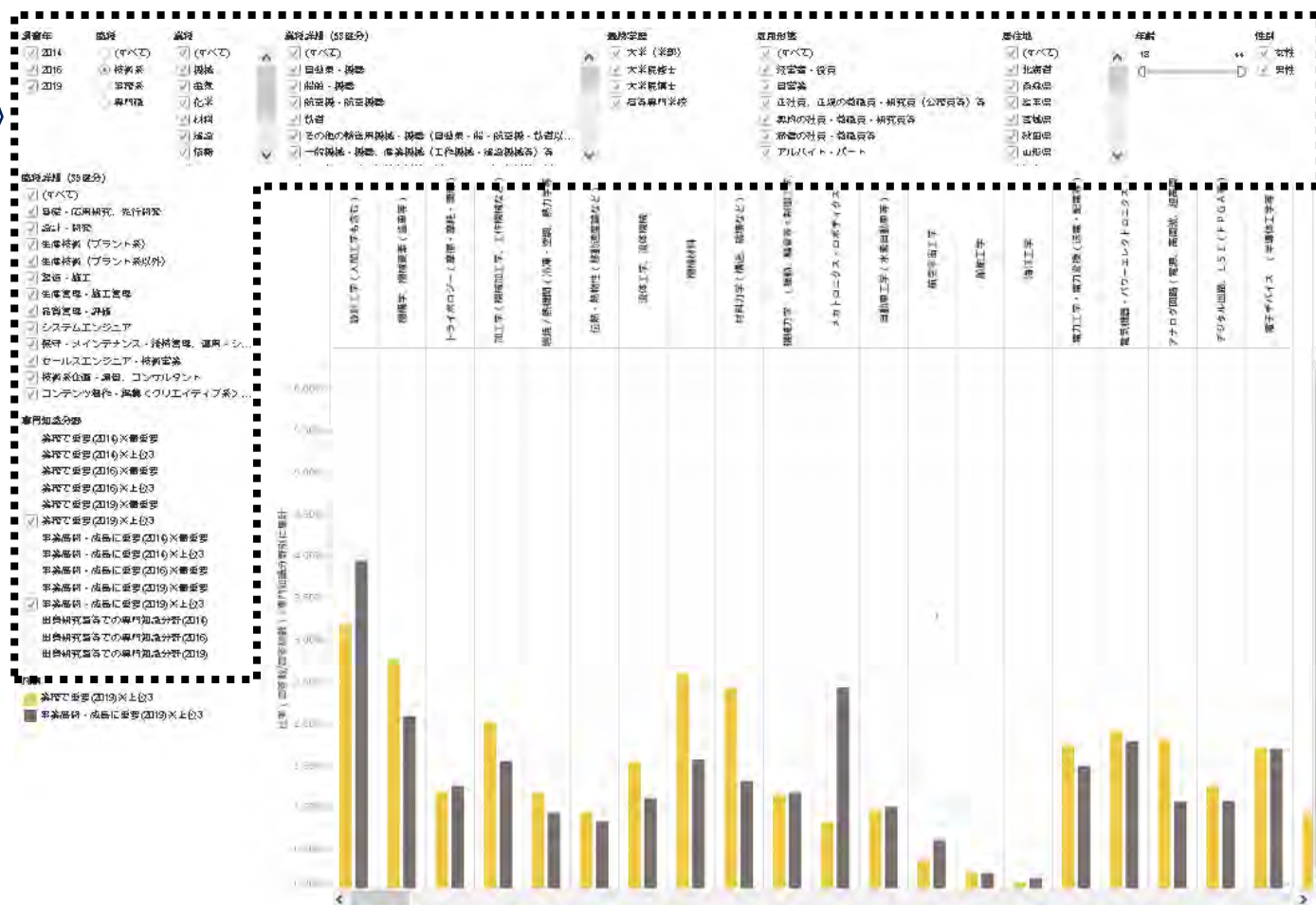
e-CSTI 分析コンソールにおいては、業種（10）、職種詳細（39）、業種詳細（53）などによる集計が可能。

職種

2014年度39職種、2019年度72職種による調査を実施。これを39職種に統合し技術系の職種、総務等の技術系以外の職種、専門職、その他の4つに中区分。

業種

2014年度53業種、2019年度110業種による調査を実施。これを53職種に統合し機械、電気、材料、化学、情報、建設、金融、流通、公的セクター、その他サービス業等の10つに中区分。



企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度）

回答者の多い業種（機械＋電気、化学、情報）についてクロス集計を実施。

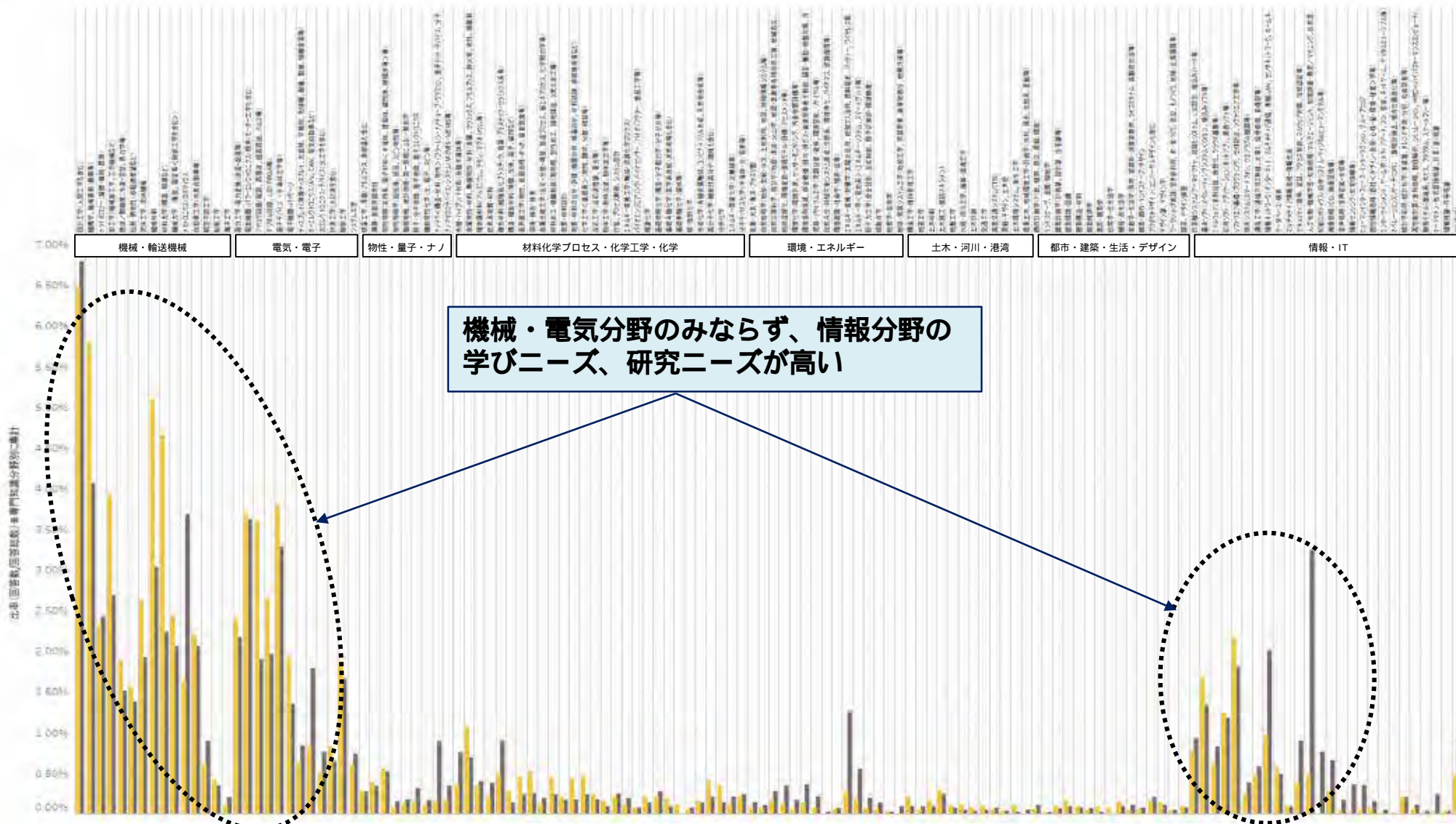
回答者数一覧（職種×業種）

(技術系)		業種										合計
		機械	電気	化学	材料	建設	情報	金融	流通	公的セクター	その他	
職種	基礎・応用研究、先行開発	459	286	311	72	10	206	15	17	105	152	1,633
	設計・開発	831	492	242	104	314	213	8	21	137	174	2,536
	生産技術（プラント系）	94	64	97	38	7	5	0	2	21	23	351
	生産技術（プラント系以外）	149	97	49	48	7	3	0	3	5	20	381
	製造・施工	323	176	270	191	47	9	0	6	25	84	1,131
	生産管理・施工管理	151	67	101	72	171	9	3	12	64	80	730
	品質管理・評価	207	137	224	67	24	43	5	21	38	68	834
	システムエンジニア	97	158	13	12	4	1,228	22	14	47	40	1,635
	保守・メンテナンス・維持管理等	103	108	33	26	12	449	15	29	164	124	1,063
	セールスエンジニア・技術営業	66	75	30	18	17	108	3	24	20	32	393
	技術系企画・調査、コンサルタント	31	33	11	14	34	59	12	6	41	74	315
	コンテンツ制作・編集＜クリエイティブ系＞	3	8	3	3	2	123	1	5	2	97	247
合計		2,514	1,701	1,384	665	649	2,455	84	160	669	968	11,249

企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度） 1/2

- 業務で重要な専門知識分野（＝学びニーズ, 2019年度）
- 事業展開・成長に重要な専門知識分野（＝研究ニーズ, 2019年度）

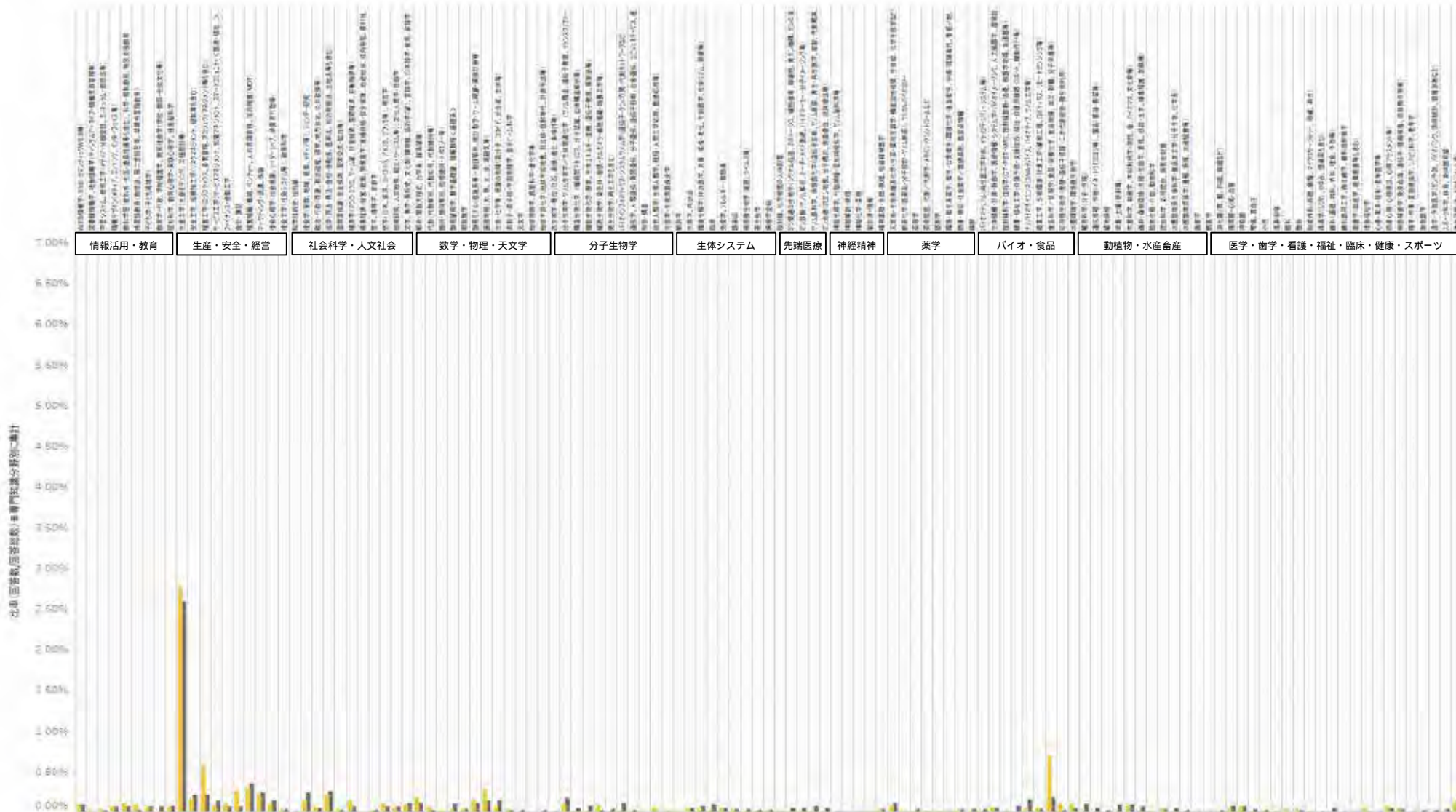
技術系職種 全職種 <機械・電気業種



企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度） 2/2

- 業務で重要な専門知識分野（＝学びニーズ, 2019年度）
- 事業展開・成長に重要な専門知識分野（＝研究ニーズ, 2019年度）

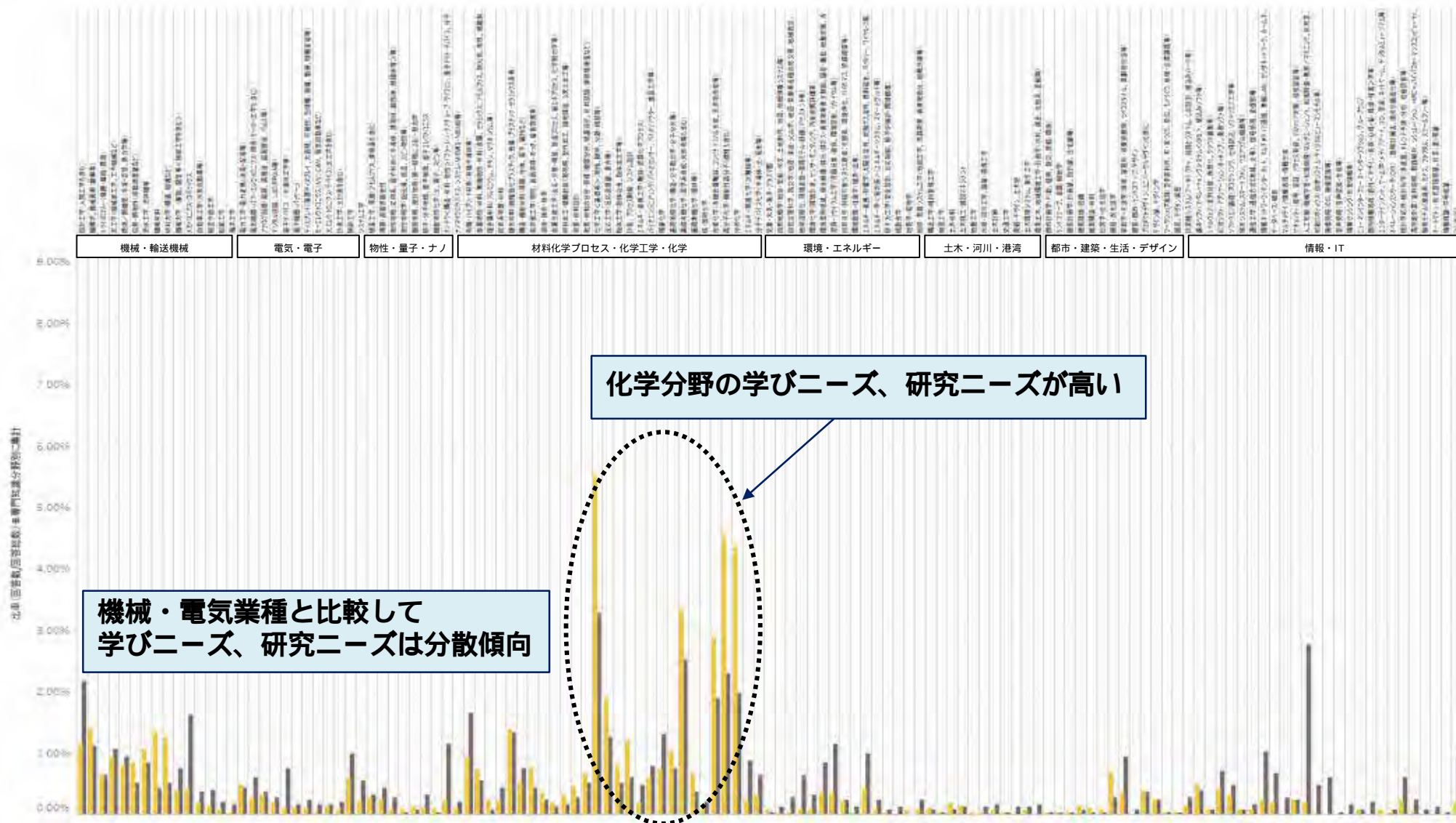
技術系職種 全職種 <機械・電気業種



企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度） 1/2

- 業務で重要な専門知識分野（＝学びニーズ, 2019年度）
- 事業展開・成長に重要な専門知識分野（＝研究ニーズ, 2019年度）

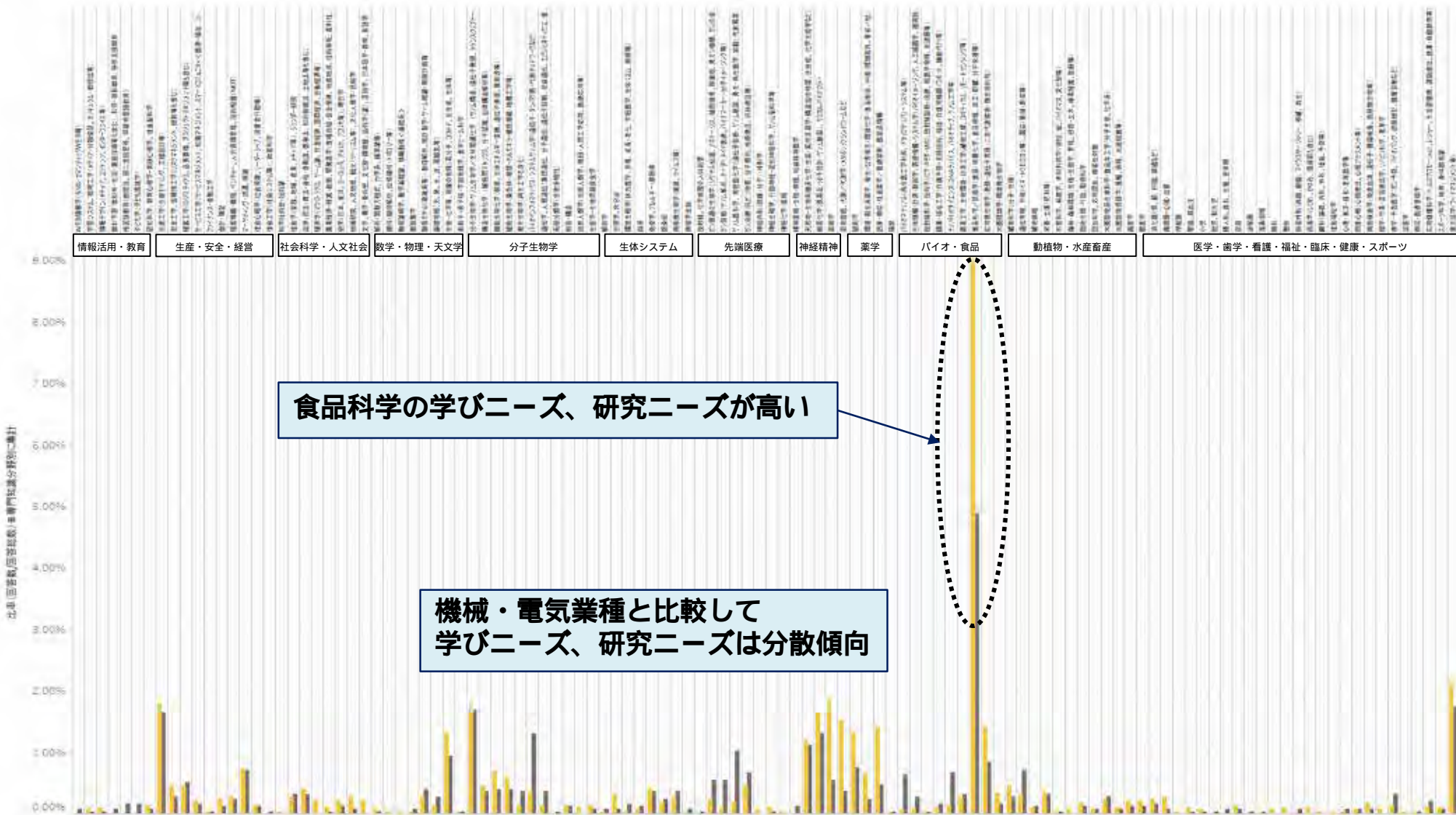
技術系職種 全職種 **化学業種**



企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度） 2/2

- 業務で重要な専門知識分野（＝学びニーズ, 2019年度）
- 事業展開・成長に重要な専門知識分野（＝研究ニーズ, 2019年度）

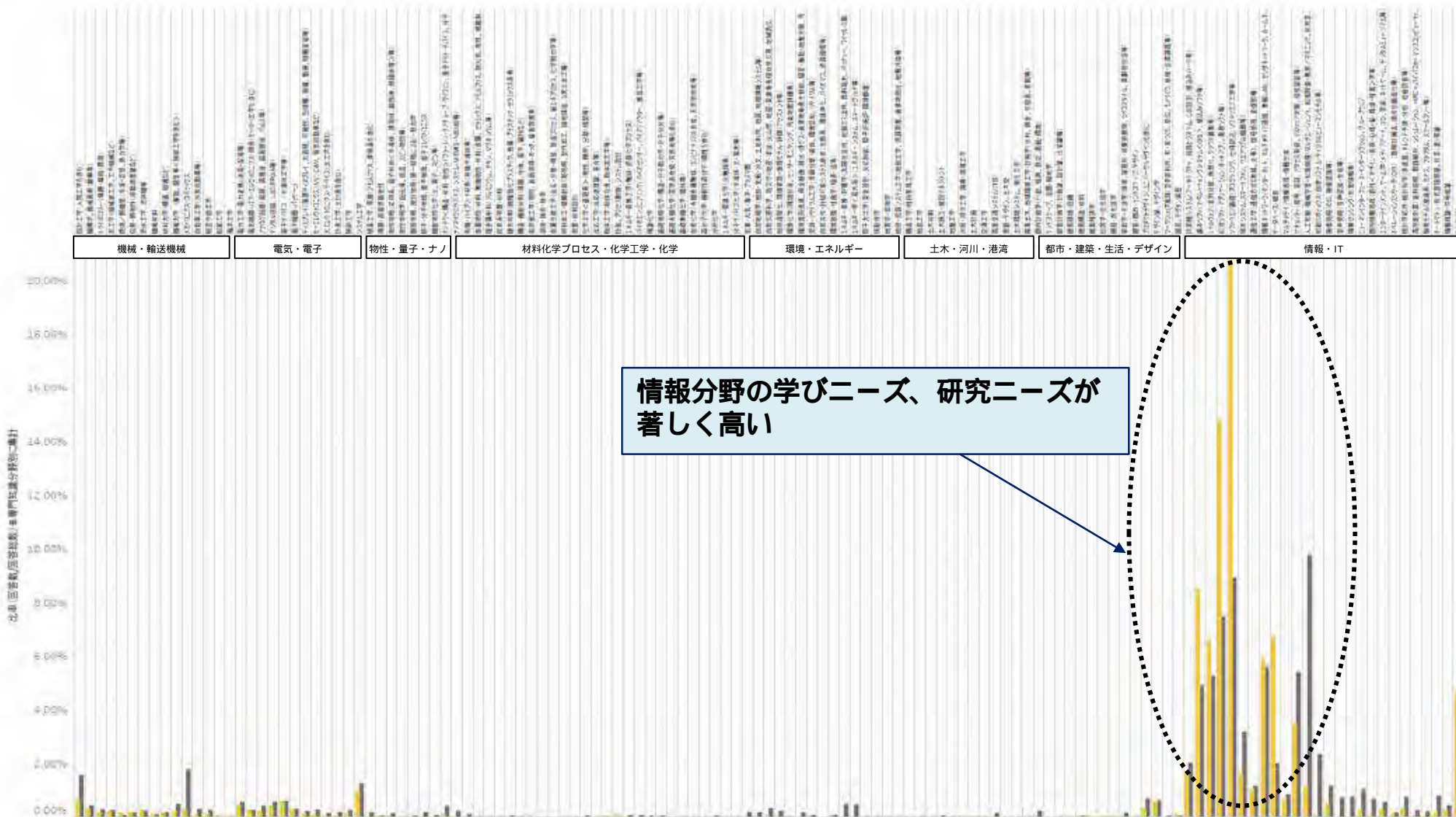
技術系職種 全職種 **化学業種**



企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度） 1/2

- 業務で重要な専門知識分野（＝学びニーズ, 2019年度）
- 事業展開・成長に重要な専門知識分野（＝研究ニーズ, 2019年度）

技術系職種 全職種 情報業種



企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度） 2/2

- 業務で重要な専門知識分野（＝学びニーズ, 2019年度）
- 事業展開・成長に重要な専門知識分野（＝研究ニーズ, 2019年度）

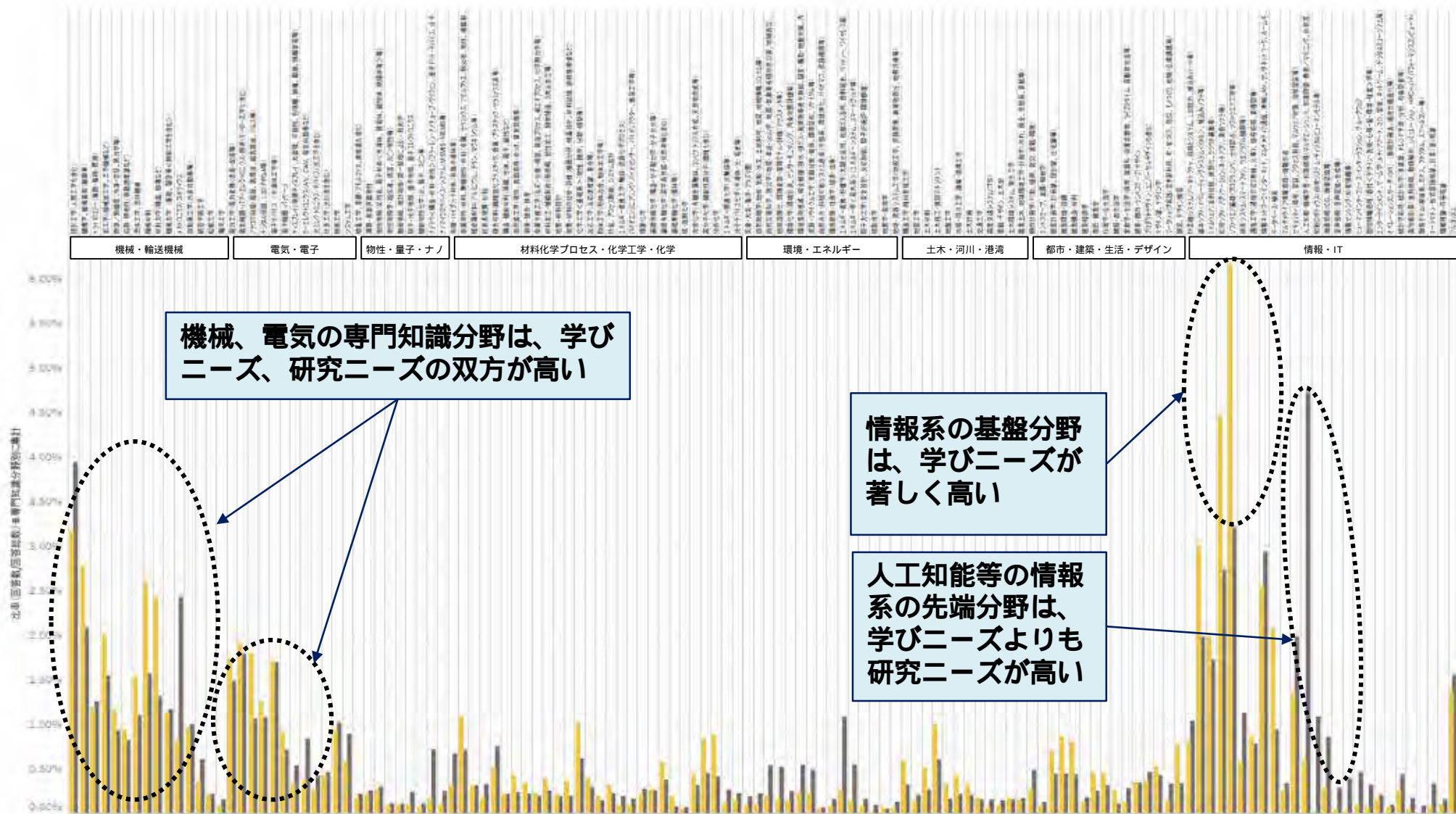
技術系職種 全職種 情報業種



企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度） 1/2

- 業務で重要な専門知識分野（＝学びニーズ, 2019年度）
- 事業展開・成長に重要な専門知識分野（＝研究ニーズ, 2019年度）

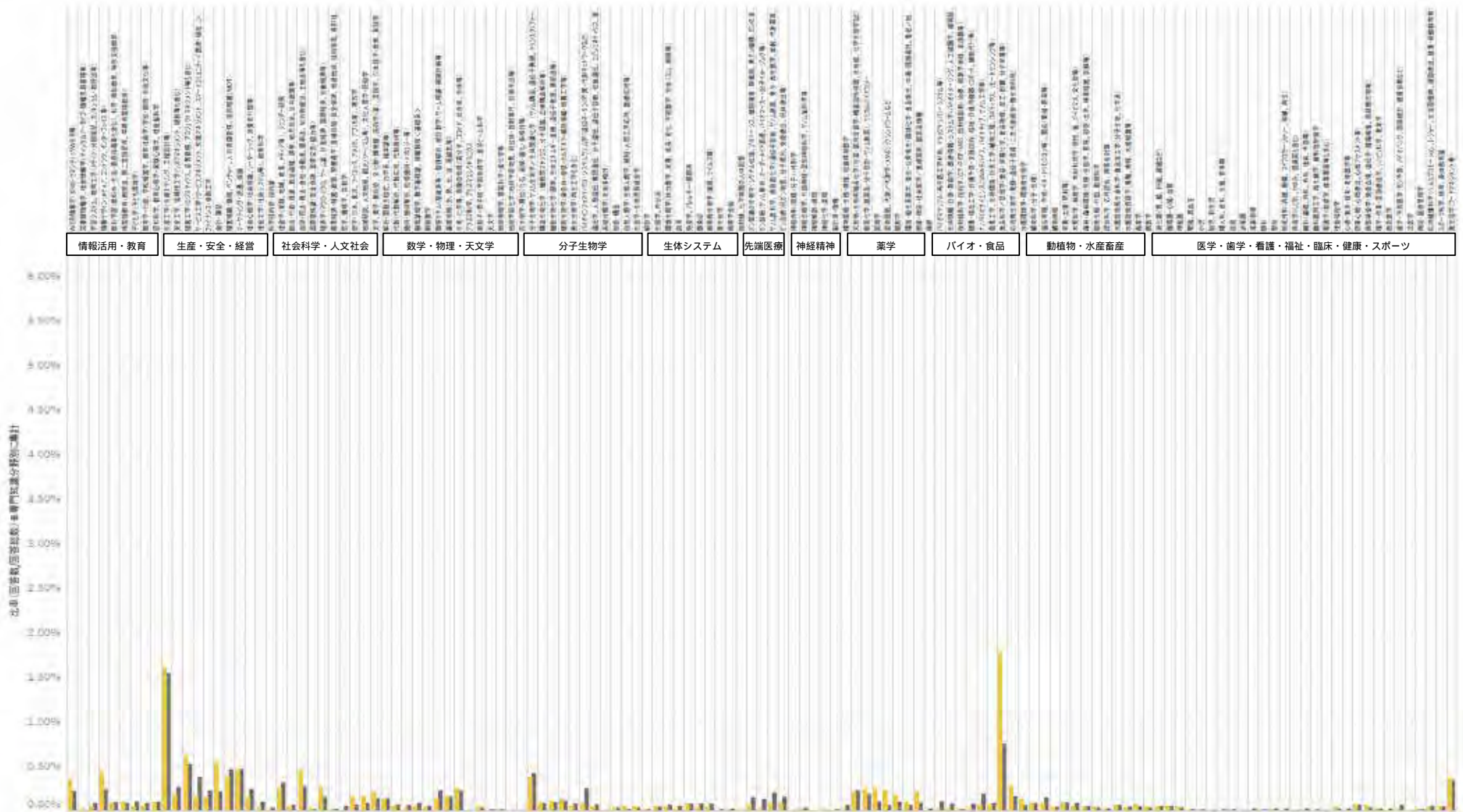
技術系職種 全職種 **全業種**



企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度） 2/2

- 業務で重要な専門知識分野（＝学びニーズ, 2019年度）
- 事業展開・成長に重要な専門知識分野（＝研究ニーズ, 2019年度）

技術系職種 全職種 **全業種**



- 回答者数が多い情報、機械、電気等の業種ごとに学びニーズ、研究ニーズの傾向を見たところ、業種の違いによる学びニーズ、研究ニーズの傾向が大きく異なることがわかる。
- 全業種平均の傾向としては、情報、機械、電気分野における学びニーズが高い。研究ニーズは人工知能やロボティクス等の一部分野で著しいニーズの高まりがみられ、機械、電気分野における研究ニーズも高い。

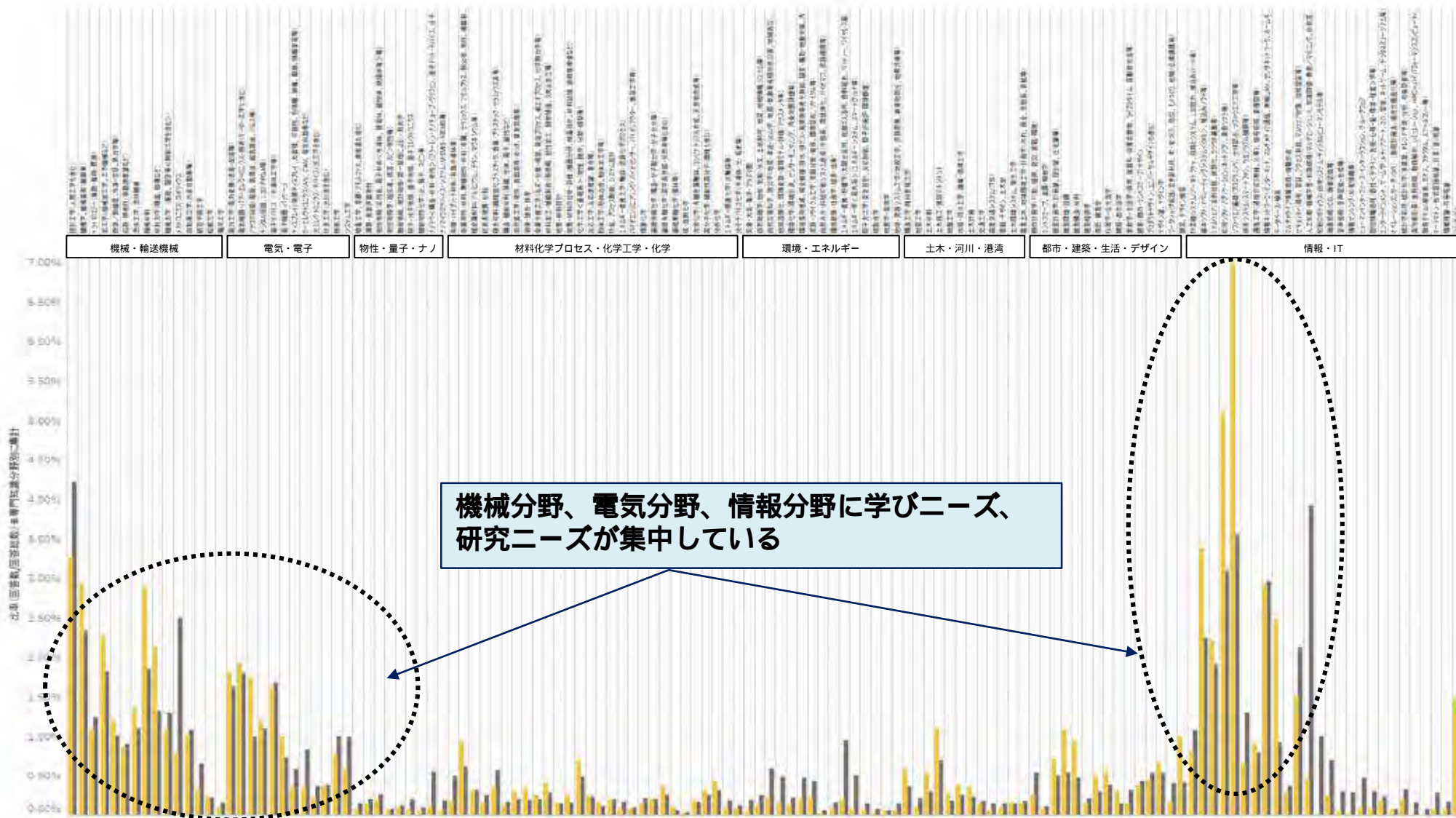
産業界における学びニーズ・研究ニーズの分析

(2) 最終学歴別傾向の分析

企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度） 1/2

- 業務で重要な専門知識分野（＝学びニーズ，2019年度）
- 事業展開・成長に重要な専門知識分野（＝研究ニーズ，2019年度）

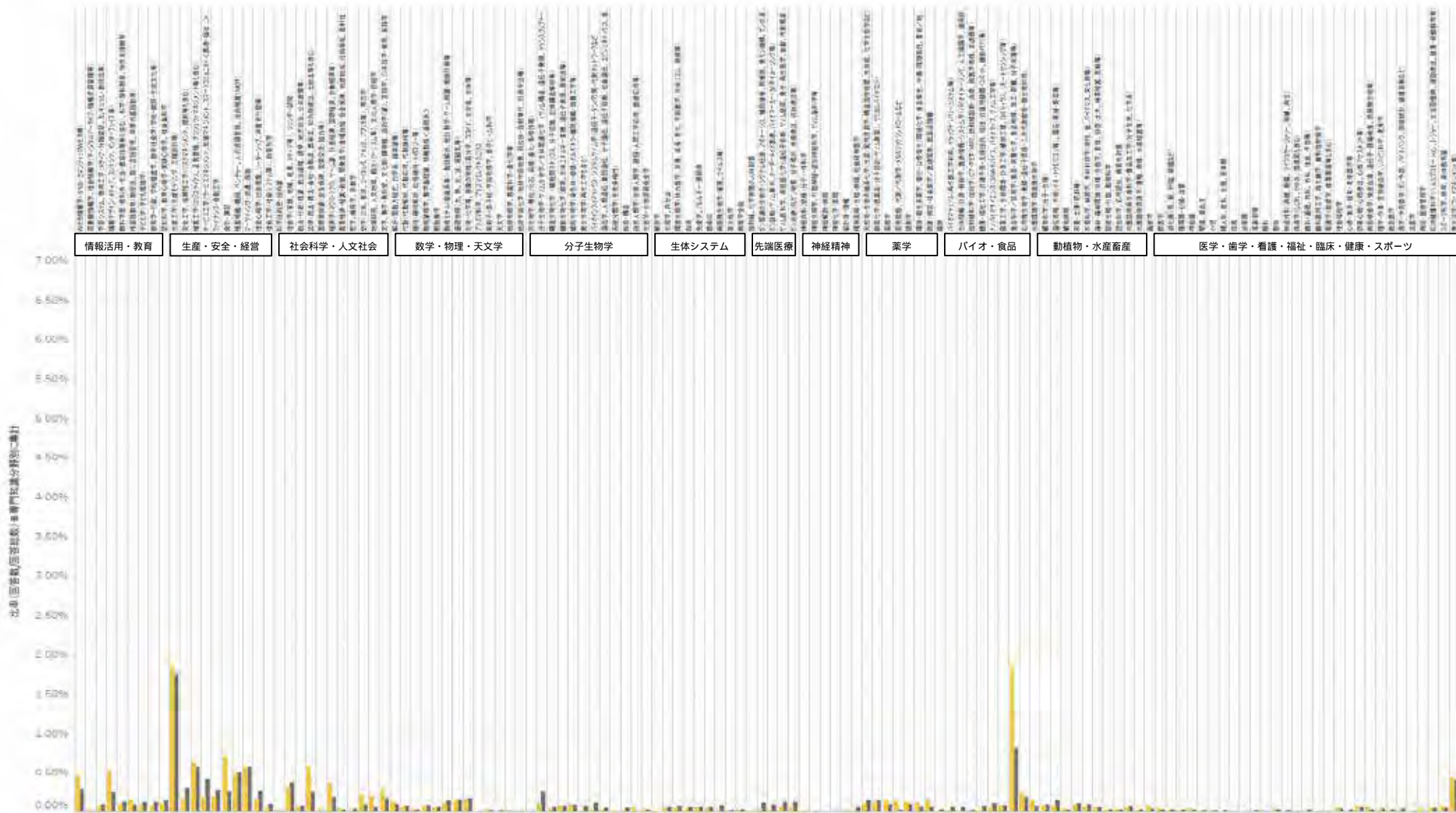
技術系職種 全業種×全業種×高専、学部



企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度） 2/2

- 業務で重要な専門知識分野（＝学びニーズ, 2019年度）
- 事業展開・成長に重要な専門知識分野（＝研究ニーズ, 2019年度）

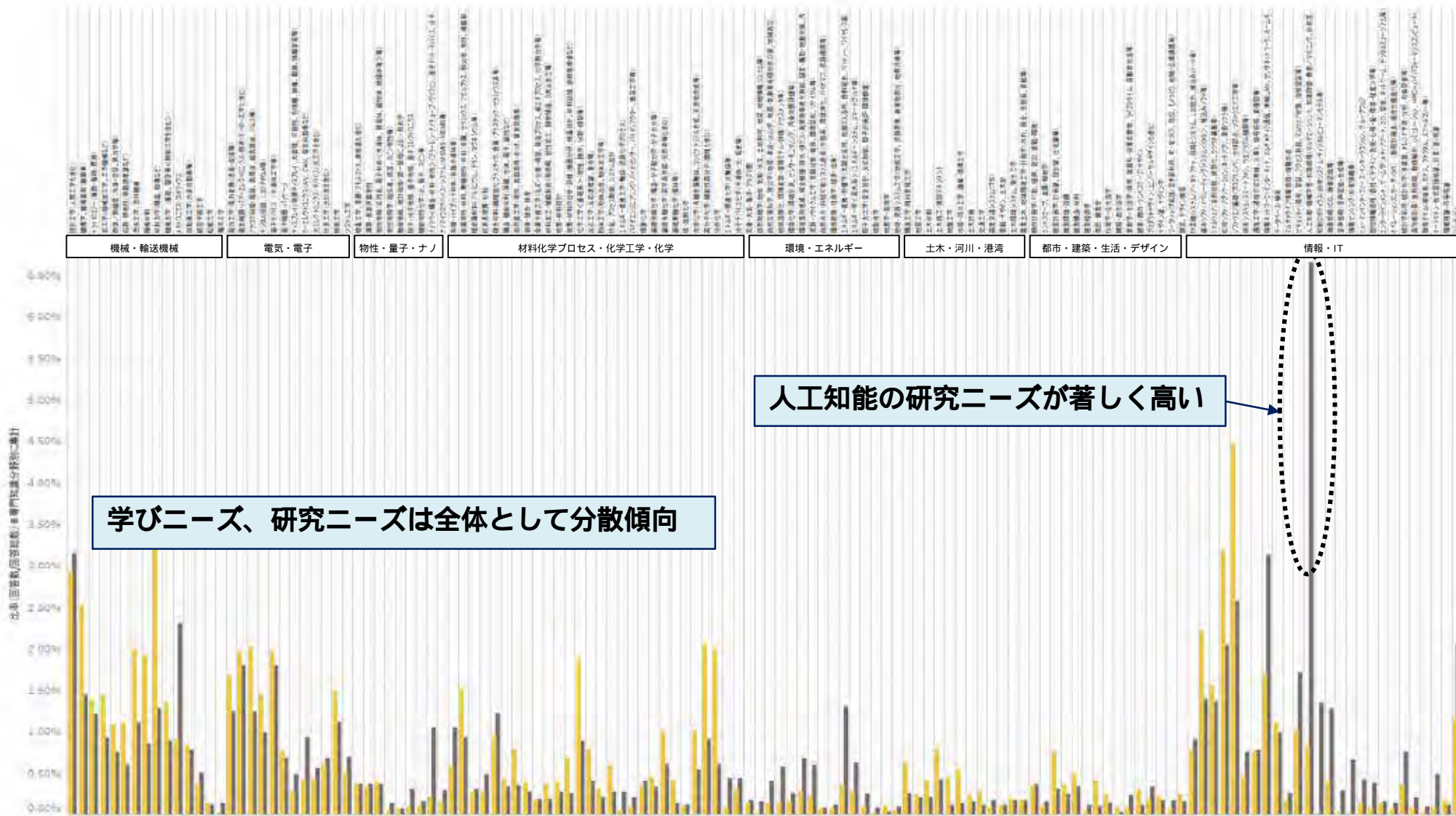
技術系職種 全業種×全業種×高専、学部



企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度） 1/2

- 業務で重要な専門知識分野（＝学びニーズ, 2019年度）
- 事業展開・成長に重要な専門知識分野（＝研究ニーズ, 2019年度）

技術系職種 全業種×全業種×修士



企業における業務および事業展開・成長に重要な専門知識分野（2019年度） 2/2

- 業務で重要な専門知識分野（＝学びニーズ，2019年度）
- 事業展開・成長に重要な専門知識分野（＝研究ニーズ，2019年度）

技術系職種 全業種×全業種×修士

